

第17回神奈川県美術展



第17回神奈川県美術展

会期●昭和57年1月20日(水)➡2月14日(日)

《1期展》工芸・書・写真

昭和57年1月20日(水)➡1月31日(日)

《2期展》日本画・洋画・版画・彫刻・立体造形

昭和57年2月3日(水)➡2月14日(日)

会場●神奈川県民ギャラリー

主催●神奈川県美術展委員会・神奈川県

ごあいさつ

第17回神奈川県美術展を関係者の皆様の深い御理解と多大な御助力を得まして、ここに開催できますことを心から感謝いたします。

県内の作家に作品発表の機会を提供し、創作意欲を助長するなどして文化の振興を願って発足いたしました本展も、回を重ねるごとに内容を充実させてまいりました。

特に今回は、関係者の皆様のかねてからの強い要望にこたえて県外で活動している神奈川県出身の方々からの出品を受付けることにいたしまして、内容的に一層の充実を図ることにしました。

会場の県民ギャラリーいっぱい集まった力作・大作の審査にあられた先生方には大変な御苦勞をいただき感謝に堪えません。

本展に寄せられる県民の方々の関心が高まりつつある今日、本展の開催は意義深いことであり、私ども運営にあたる者は一層努力してまいりたいと存じます。皆様の御鞭撻、御協力を心からお願い申し上げます。

昭和57年 1 月

神奈川県美術展委員会

委員長 上野 豊



日本画

洋画

版画

彫刻

立体造形



大賞

坂井彰夫●SEISHŌ (彫刻)



準大賞

黒川洋●19 (洋画)



準大賞

曾根光子●PRESS-A'(立体造形)



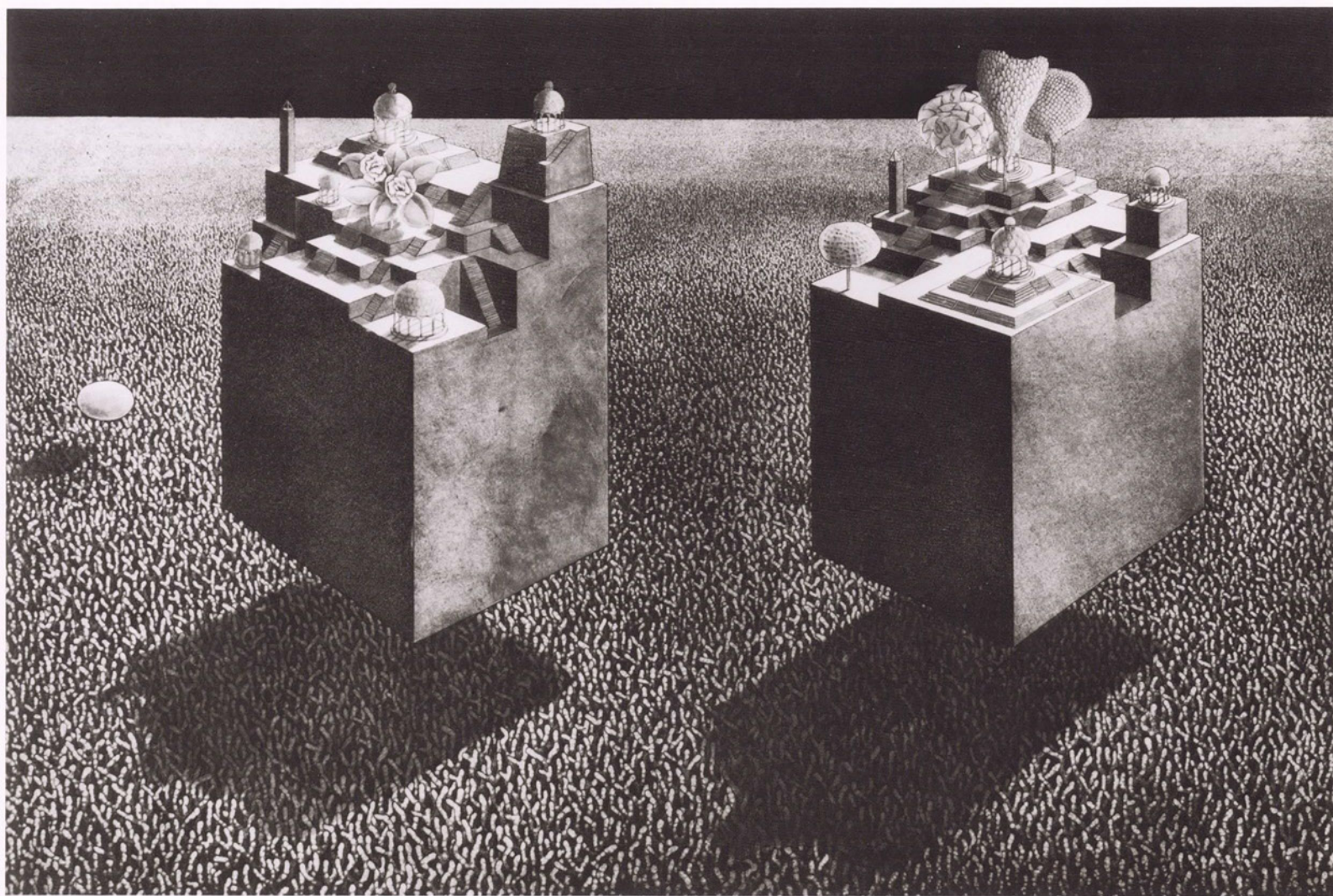
特選

渡辺薫●赤い部屋 I・II(日本画)



特選

利渉重雄●思い出話（版画）



特選

李赫●歲月（彫刻）



美術奨学会賞

松倉茂比古●KU（日本画）



美術奨学会賞

香川猛●行く秋(1) (洋画)



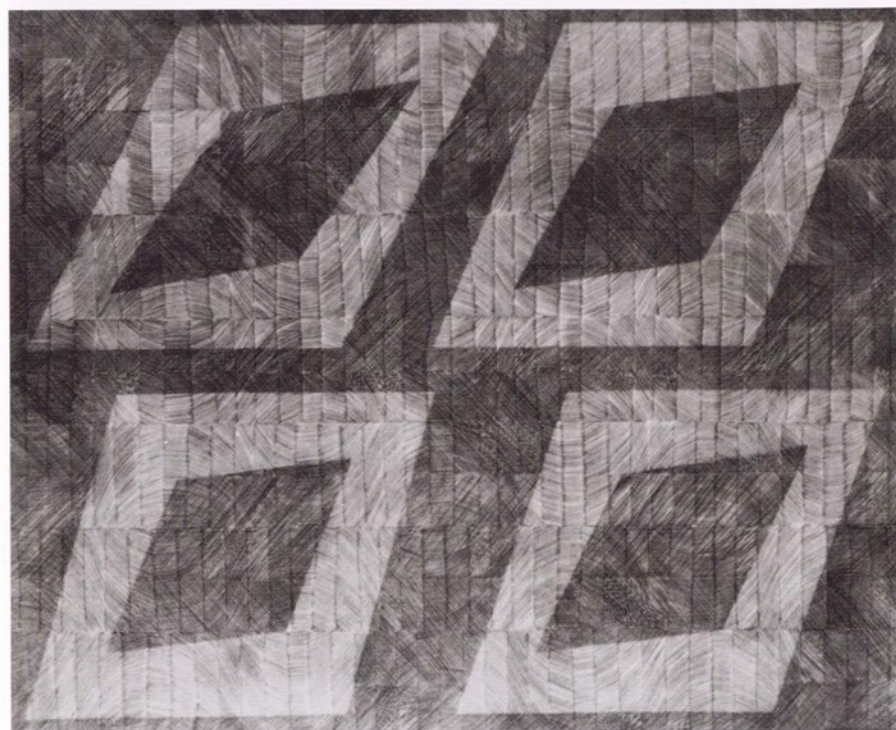
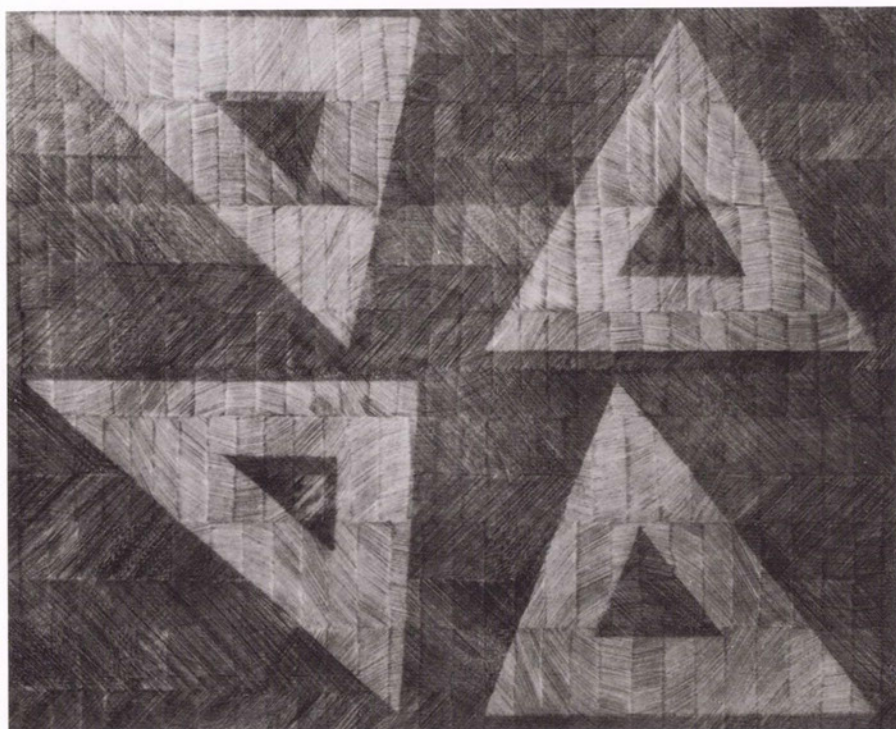
美術奨学会賞

月岡和子●生誕を祝う合唱（洋画）



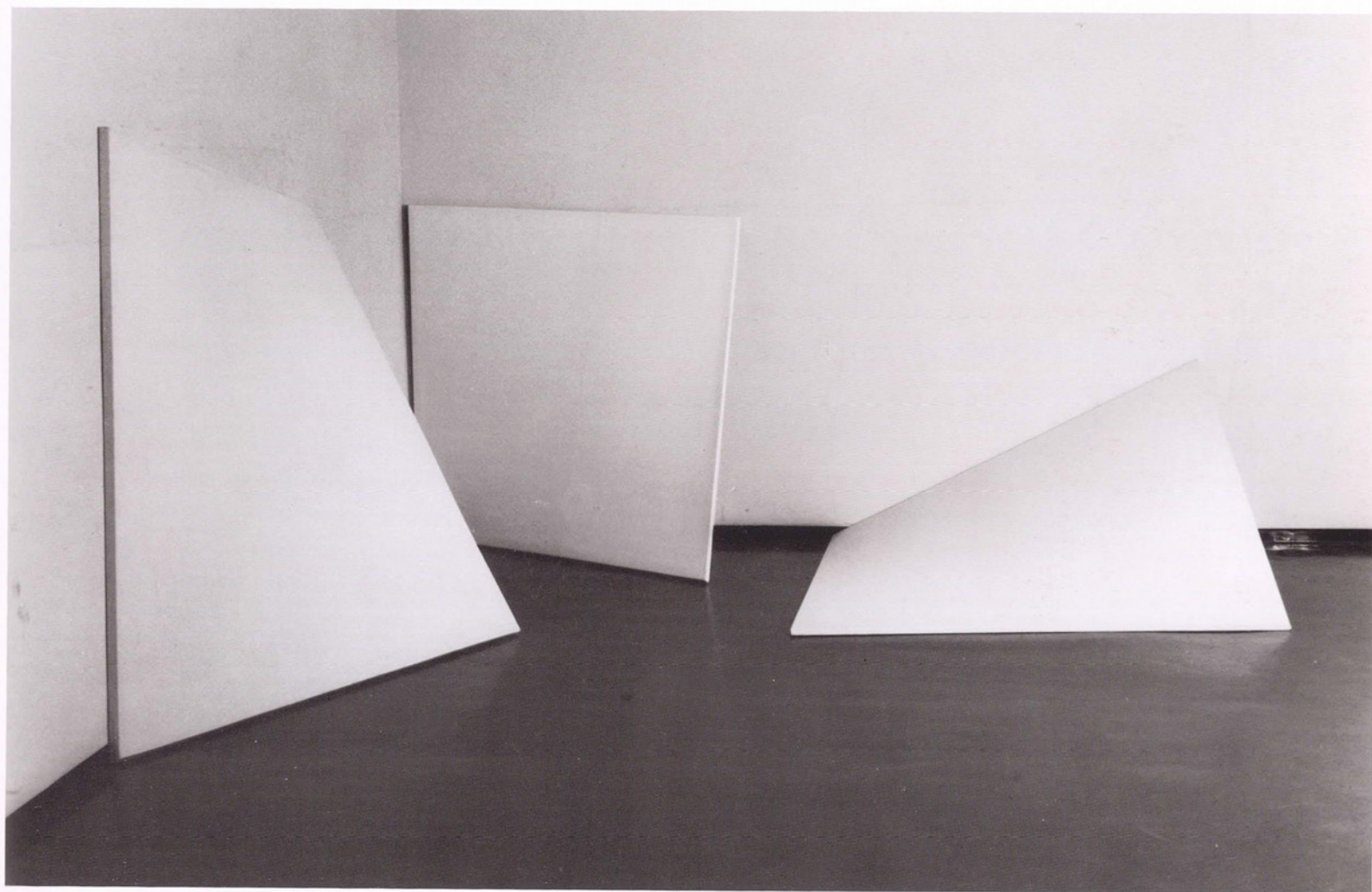
美術奨学会賞

菅沼稔●Relation Ⅲ・Ⅳ (版画)



美術奨学会賞

小柳幹夫●リアクションⅠ・Ⅱ・Ⅲ（立体造形）



近代美術館賞

星兼雄 ●階段のある(変容Ⅱ) (洋画)



特別奨励賞

富岡克雄 ● 森の巣 (日本画)



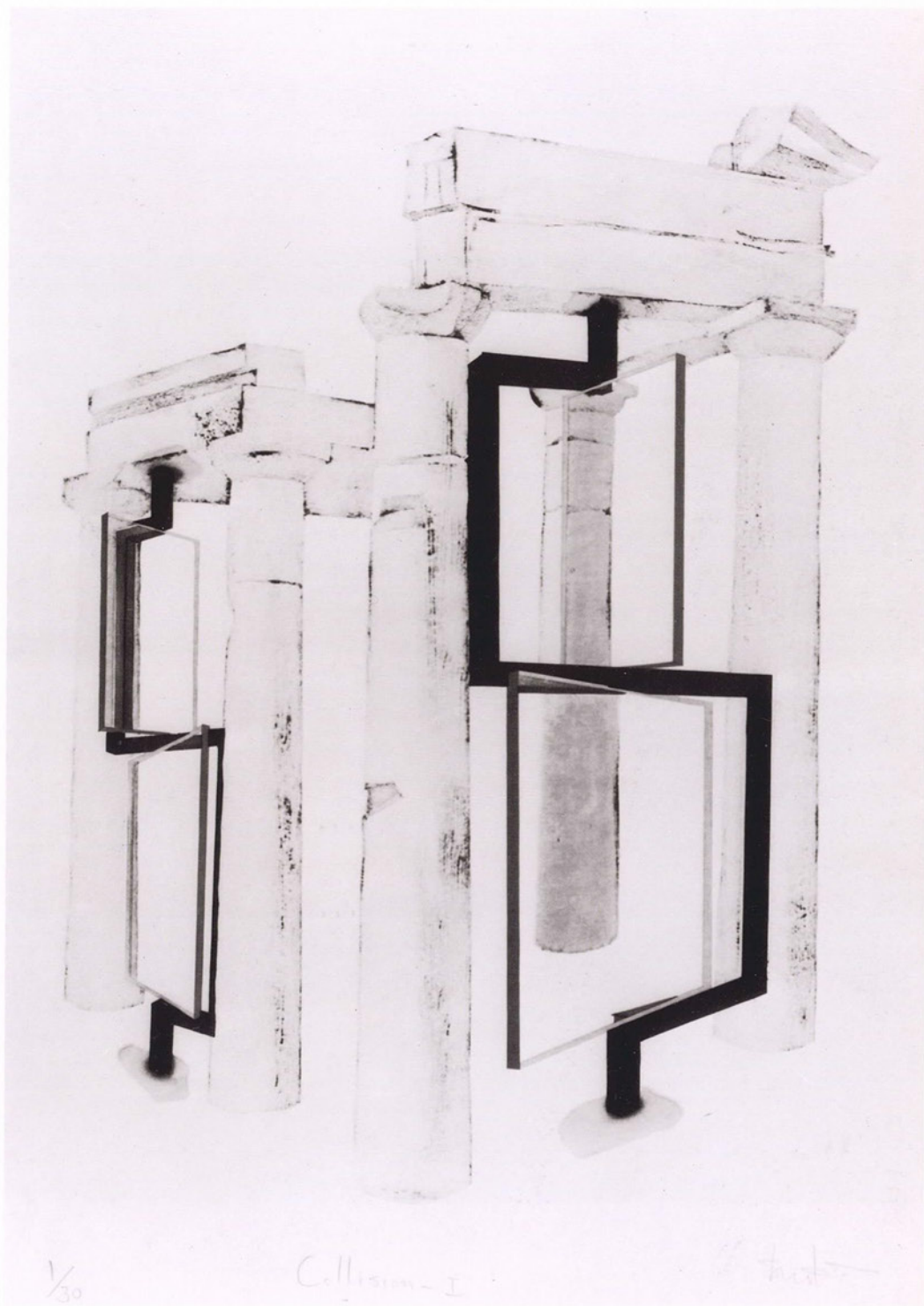
特別奨励賞

岡本晋一●SAMAYOI (洋画)



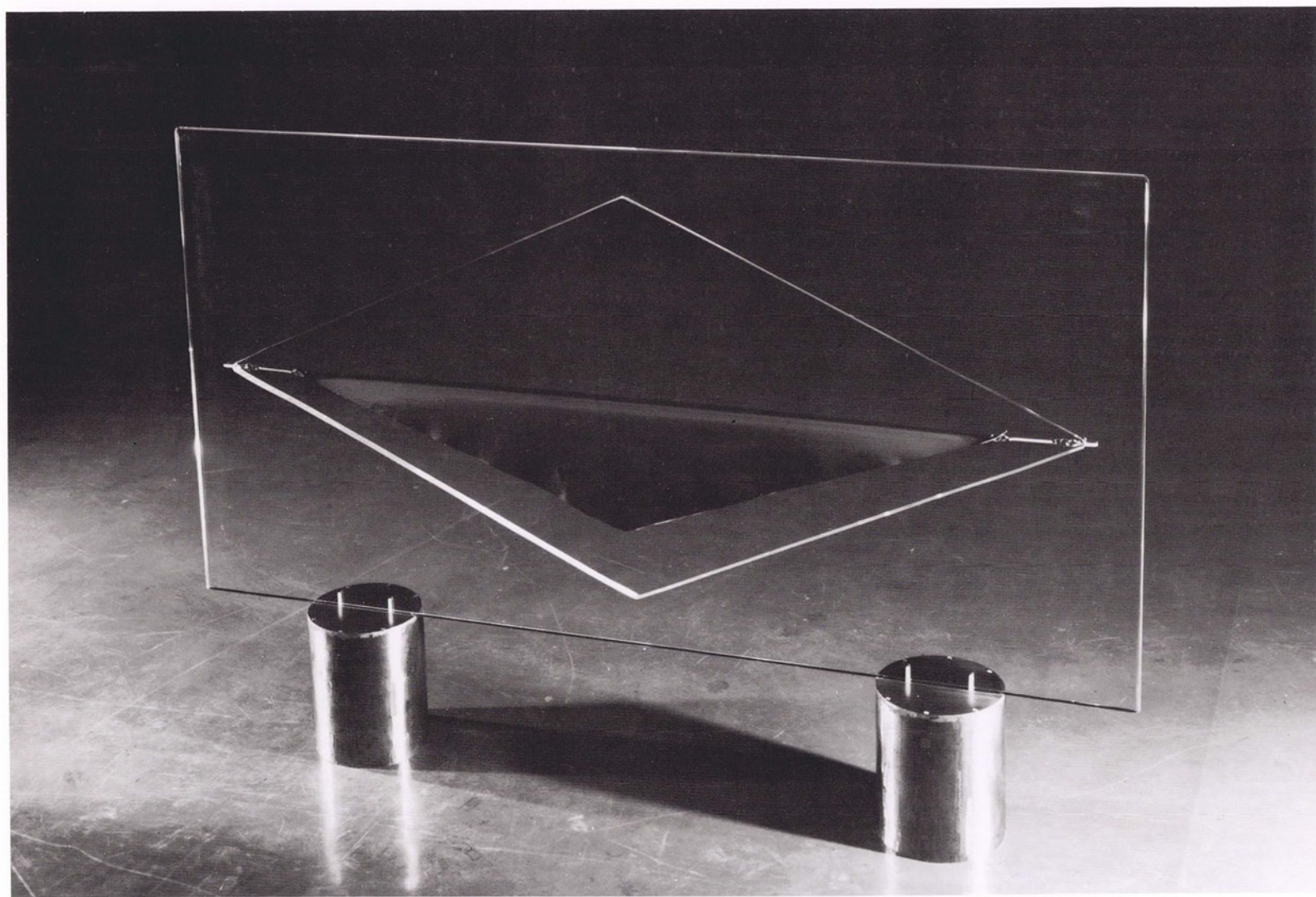
特別奨励賞

高垣秀光 ● Collision-I (版画)



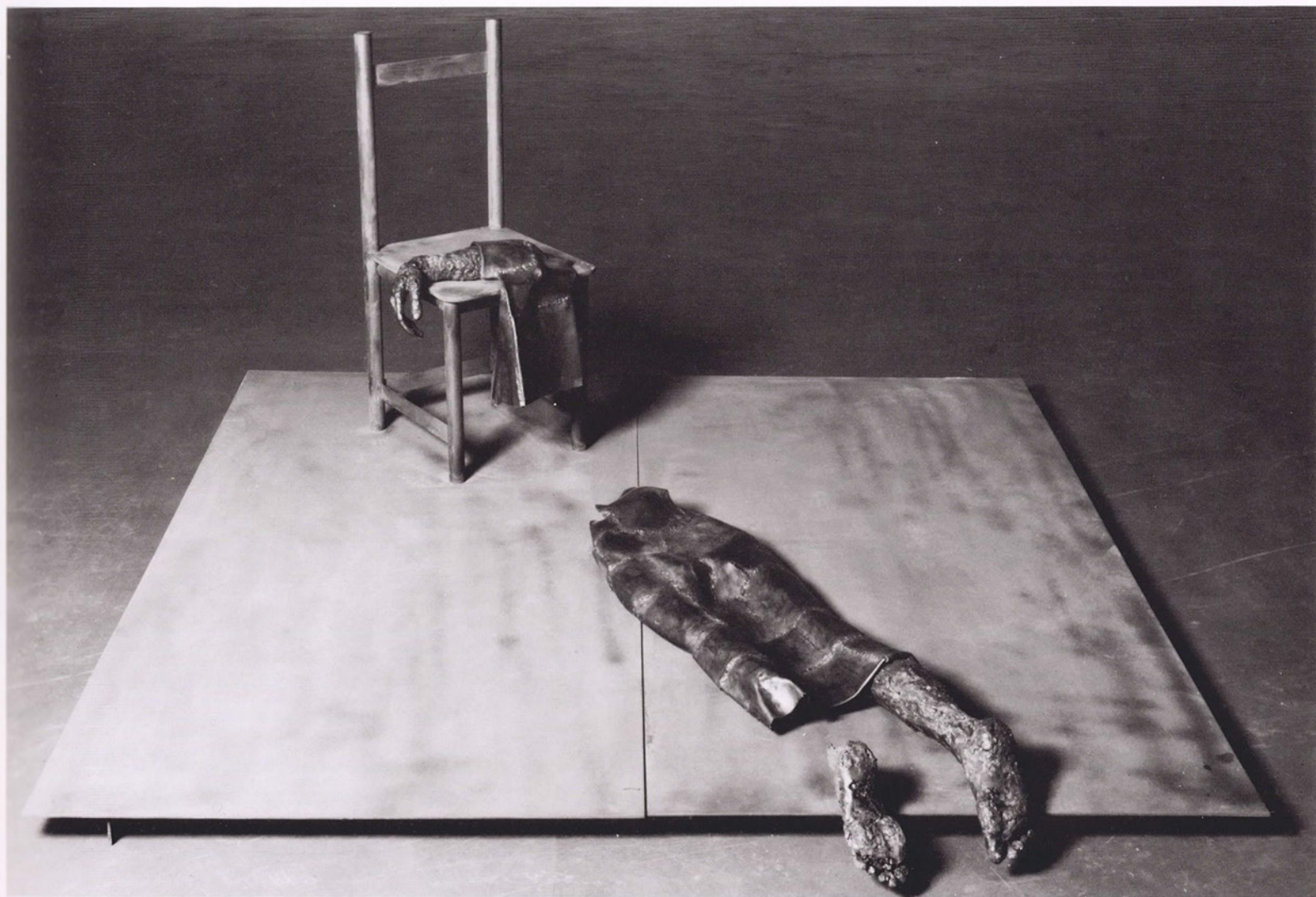
特別奨励賞

難波京子 ● tension-A (立体造形)



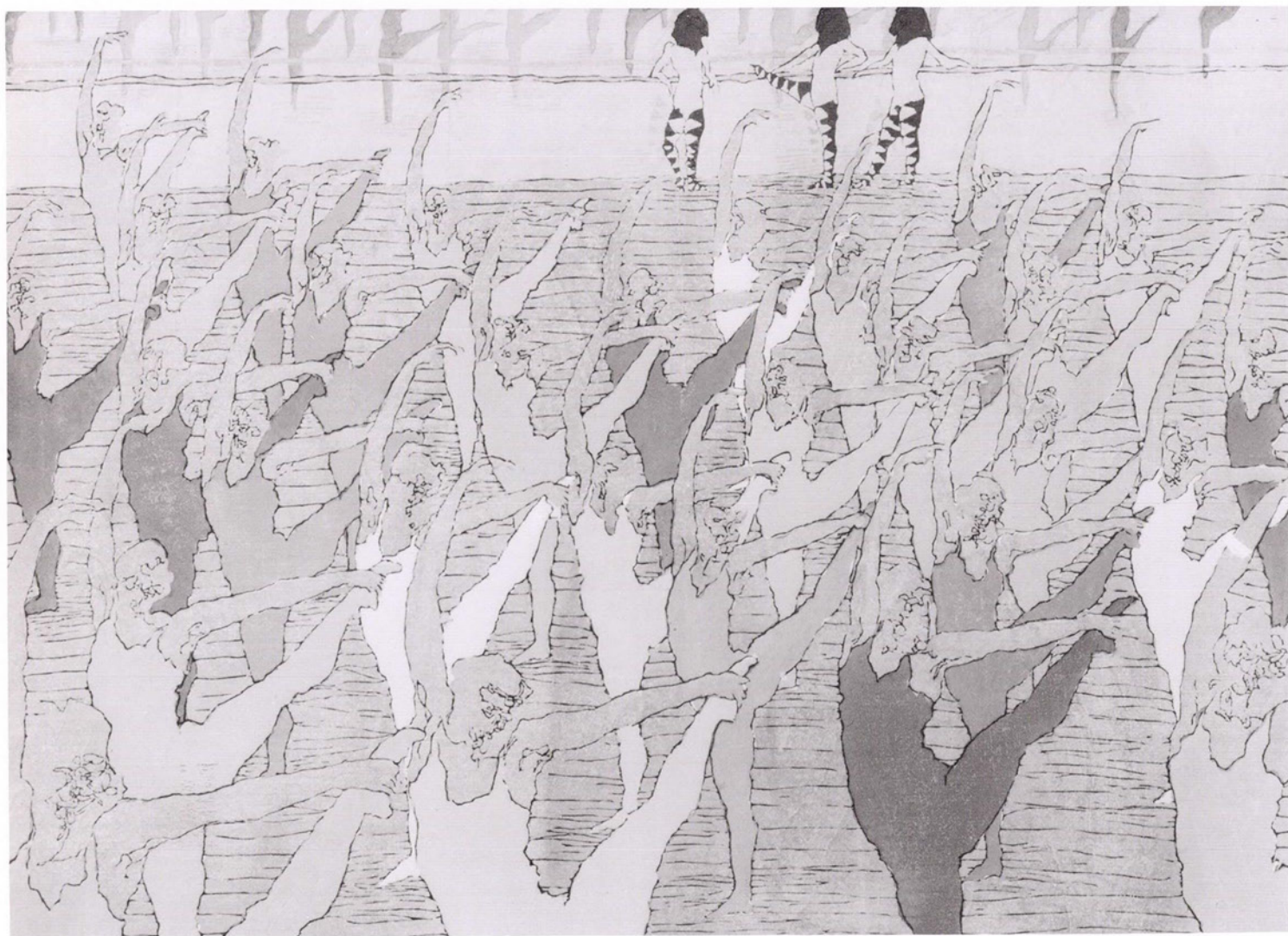
特別奨励賞

勝又豊子●更生一忘失からⅡ（立体造形）



県議会議長賞

大庭明子●午前の旋律（版画）



■受賞作品目録

(日本画・洋画・版画・彫刻・立体造形)

- 大 賞 坂井 彰 夫 SEISHŌ (彫刻)

- 準大賞 黒川 洋 19 (洋画)
 曾根光子 PRESS-A' (立体造形)

- 特 選 渡辺 薫 赤い部屋Ⅰ・Ⅱ(日本画)
 利 涉 重 雄 思い出話(版画)
 李 赫 歳 月(彫刻)

- 美術奨学会賞 松倉茂比古 KŪ (日本画)
 香川 猛 行く秋(1) (洋画)
 月岡 和 子 生誕を祝う合唱(洋画)
 菅 沼 稔 RelationⅢ・Ⅳ(版画)
 小柳 幹 夫 リアクションⅠ・Ⅱ・Ⅲ(立体造形)

- 近代美術館賞 星 兼 雄 階段のある(変容Ⅱ) (洋画)

- 特別奨励賞 富岡 克 雄 森の巣(日本画)
 岡本 晋 一 SAMAYOI (洋画)
 高垣 秀 光 Collision-I (版画)
 難波 京 子 tension-A (立体造形)
 勝又 豊 子 更生一忘失からⅡ(立体造形)

- 県議会議長賞 大庭 明 子 午前の旋律(版画)

■入選作品目録

《日本画》

宮前正樹 1981夏に I
海老根美紀子 根のない夢
千住博 風
富岡三智子 彼岸
中村玲子 夏わたし
青木藻美 時の軌跡
牧野一泉 ゆるむ因果律
中村慎一 落鳥
椎木幸子 秋芳
橘波津子 家路
林美枝子 白昼夢
五十嵐由季子 蒼(そう)
山本敦子 夢幻樹
武政淳子 DOLLの夢
川村紫朗 曼珠沙華
飯野静江 夕明の影
伊澤美都 葱の詩
一瀬まり子 赤い風の中で
安藤千晶 室内 II
古賀文子 萌 I
熊坂靱太郎 魚床
奥山たか子 笑い II
市橋豊美 跳梁休息
大島司郎 幻(げん)
小野寺茂 木の下で
加藤敏夫 石
鈴木紀彦 牧人の詩

香野ルミ子 少女
竹川正俊 収穫
小松崎千砂子 風の行方
岡田秀明 懺悔Ⅲ『忘却』
伊藤良久 去りゆくもの
森川典子 渡る風
入江都賀 引込線
佐々木史江 マヤ
井出文洋 人々一炎
山中総 田園秋色
野崎丑之介 野次馬

《洋画》

奥田紘 離反する形
高岡松夫 作品 101
新井恵子 JULY
大野寛武 惑星
小川浩 雨過ぎて
石川聡 PULSTAR-I
梅原健二 チロリアンの娘
桂宏 独
加藤幸寿 人間思考(I)
松岡美保 Space
萩原和子 室内
小串世喜 海王
高澤伸行 動物園
川原孝二 見直し石炭エネルギーA

原秀一 魔鬼
成田麻生 作品 H
竹下隆 City-Yokohama
中沢郁子 ドードーの夢
岡本博 共演(No.1)
小森いま 天と地の間A
塚原洋子 鼓動-Ⅱ
鏑本純一 SCULPTING(ℓ)
海野博子 裏窓Ⅲ
石川俊一 私の散歩道「A」
藤瀬泰子 穹
入江幸子 調(1)
南部正美 凍湖
男谷省吾 市浦風景
蓑島徳佳 ロッキード鉄格子への攻防
木川田光弘 宵月夜
西村博美 Construction P-2
米山肇 触知なる風景Ⅳ
出口佳子 陽光No.1
石井隆 聖堂にて
武藤政彦 第2の風化3
安部利行 予感Ⅰ
石塚三吾 記念撮影(生い立ち)
風間美苗 憧憬Ⅲ
たくし盛勇 裸婦2
三村賢治 筵と鳥
庄司健一 風船ガム
高橋和夫 風の中の子供たちNo.2
柏木隆一 ダブルイメージ(1)

大橋 幹 黒い服の男
 山田 裕子 『わ』I
 栢沼佳子 独身貴族
 岡田 房子 うずくまる街
 千葉文隆 「想B」
 松波慶一郎 in door II
 武田 和子 飛翔
 松田 健 魚(知)
 田村文男 カンII
 関 光行 作品A
 鶴岡元子 バザール
 天形 健 女
 木村信吾 恐山(口寄せ)
 能勢美保子 景8109
 石塚健児 大地(II)
 田中善隆 ゴロ・ゴロ(3)
 江野永青 状況のある断片B
 大久保俊夫 車中にて(II)
 鈴木幸子 朧明
 岡崎義弘 群がる面I
 細合仁一郎 作品A
 上新知彰 華2
 臼井恵之輔 トライアングル'81-9
 近藤栄子 Phenomenon VII
 山田弘子 8月の万華鏡(B)
 結柴正作 浜への道
 柏 豊 トレド
 宮田翁輔 開発II
 平野剛敏 晩夏

小倉治子 祈り
 中村幸男 時の流れI
 南田昌康 花黙II
 佐々木薫 プヨプヨ
 加藤智子 噴水
 尾形圭介 まつりの復活(2)
 富樫京子 空の足場

《水彩画》

瀬尾 力 核について
 松原 賢 赫(II)
 井上征彦 白壁の拘束
 青木登史男 日の出

《版画》

菅原大輔 仮面とピアス
 寺田有恒 入口
 青木道夫 忘却への舟出・鳥・牡丹
 不安な休日
 村岡千秋 老犬の記憶
 大島弘義 深海の宿
 永井 聡 Thinking power
 in the flash
 宮藤凉一 MARKET PLACE
 岡島領一 The king of chair

杉山一夫 ドブ板シリーズ“三人のマダム”
 石塚啓一 マイドライブ
 日向野桂子 良い匂い
 金子英彦 IMPROVISATION(2)
 長沢康子 森の中の化石I
 青木 達 SHADOW81-02
 森川信子 afterimageB
 五島三子男 vanishing scenery
 藤岡 慎 重さにまけて
 工藤忠孝 町I
 秋庭宏行 Mad angler(ko ro ko ro)
 小清水量造 A continuous of
 Forming-8102
 利涉重雄 孤高の街
 浜西勝則 連関-VARIATION No.6
 江波戸郭子 夕紅横丁
 鈴木静子 幼い日
 矢田博次 night I
 隈部滋子 chaos-I-1
 岡部龍子 オブジェのある場所(II)
 高橋幸光 G.B.R.Y
 平賀敏己 いぬ
 赤羽智子 屈性
 木内哲也 Untitled
 高橋 功 藻 '81
 亀井まどか the hole

《彫刻》

阿部佳明 女性Ⅱ
 大河政満 風No.2
 宇野務 静
 清水幹子 ザビーネ
 菅原千恵 海の斜光
 植木孝二 10月の女
 平井一雄 春
 高田大 Romans(二人の海辺)
 森英治 菩提樹
 青木健二郎 木と空間
 坂井彰夫 CHIP
 坂井匠子 夏
 金子篤司 土用干
 桶口重隆 女子坐像
 永井美樹 上弦
 鈴木雅明 NADJA
 李赫 詩人の首
 山根隆子 るん
 宇佐美明 女立像
 川口シノブ Tさん
 村上博史 女の首
 赤尾朝美 或る途上にて その2
 土屋健 陽光(Ⅱ)
 酒井道久 動くまい
 古市万里 望洋
 杉山仁 目醒め
 原田美穂子 フェミニスト

大槻一二 少女
 原田純成 環V
 松本雄治 サア、女神、天を翔けよう!
 杉英行 父の碑
 金子典義 渾沌王

《立体造形》

玉置仁 FORM
 若菜武司 金づるをつかむ
 大北利根子 気配-1・2
 梶山浩二 うつろな形(A)
 前島健治 風の音16-三つの正方形の場合
 大塩英夫 切られた2枚の円板
 平岡悦郎 Action and Reaction(接点)
 木村巧 時間の停止
 和久井Who HAULING
 大貫玲子 「てん」ではなくて「ないん」
 前田和彦 光の揺動
 斉藤光弘 from plane
 窪田俊三 表相2
 人首康二 様態
 栢沼州良 Circle
 高橋勉 六つの意味ある水面
 石井富久 冬
 松峰美次 連唆律(れんざりつ)
 森雅宏 器(うつわ)たる
 平野米三 水平考「逆立」

大隅英雄 LOCUS OF WING '81
 古井智 Operation loop'
 P'={1,2,3,4,5}
 伊藤紘子 Variation2
 山本豊彦 rebound
 高橋順一 判断—モダリテート
 永野光一 蒼空
 松倉藍輔 風の領域
 疋田優 C.P.S.
 佐藤正光 作品D
 東日出夫 無題
 渡辺紳二 Cylinder

■審査経過

《日本画》

前年度と比べると搬入点数が、わずか3点ながら減っている。ところが応募者数は3人増加していた。これは1人で2点以上の出品者が減ってみな1点主義に徹したことであり、それだけ出品者は自信作を出してきたことになる。それではその心がけになって、慎重に審査に当らなくてはならない、という気持ちをまず持った。

全出品作品をズラリ並べて、極めて大ざっぱに眺めたとき、一瞬今年は何となく凡作が多いのではないかと感じた。審査をした三人が一樣に感じたところである。ところが、二回、三回と繰り返し見ているうちに、どうして、どうして、われわれが初めに抱いた凡作という見方は大変な間違いだったと気付いた。なかなか力作が多い。しかも、それを表面に出さず、作品の内に秘めているのである。即ち、着実な進歩が各作品の中で行なわれているのである。いいかえれば、年とともに作画内容が充実していることである。正直いって、まことに嬉しかった。

もう一つ、審査しながら嬉しかったのは、この県美術展の日本画部門に顔馴染になった数人のベテラン作家の作品に、「こたしも又、お変わりなくて」と再会できたことである。各ベテランが、それぞれの持ち味を、特性を十分に発揮してテーマを自由な方法でこなしている。それでいて、決してマンネリズムに堕ちていない。どれほど、このベテラン達が真剣に自己の題材と取り組んでいるかが、十分に判る。これは貴いことだ。ベテラン諸氏のお名前をここには書かないが、判っていただけたと思う。

もう一つは、新人たちの進出だ。前述のベテランに一步もひけをとらないどころか、追い越そうとさえしている研究の成果が、ギラギラと発現されている。現代的な絵画感覚に溢れるこうした作品は、何ともいえない強い力でわれわれを魅了してくれる。これを一層推進して、さらに新しい方向へ局面を開きながら、日本画特有の美点を研究し、追求してもらいたい。

百点近い出品作品から同じ作家の2点出品を1点にしぼったのは、一人でも多くの人の参加を願ったからである。しかし、どうしても分離できない作品はそのままにした。そういう作品は1人だけだったが、決してその

作家を、作品傾向を特別扱いしたのではないことを、おことわりしておく。

また、本展の審査傾向が抽象傾向を好むように思われる向きがあるらしく、そんな噂を耳にするが、決してそんなことはない。抽象であれ、具象であれ、いいものはいいのであって、いずれを好むなどの偏見は持たない積りだ。

とに角、県美術展日本画部門の他流試合の面白さは既成団体展では見られないところだろう。有名既成展へ出品している人も多いのだが、そこでは見逃がされてしまう長所や持ち味が、ここではよく判る。ある種の埋もれた鉱脈発見に似た感興を覚えるのではなかろうか。

入賞作品はもとより、入選作品にはすべて見どころがあるから入ったのであって、残念ながら入らなかった作品とは、大きな相異があることを感じた。絵の稽古を初めた程度では到底、入選はおぼつかないし、また昔そのままの観念のもの、新しがって変に乱暴に描いた作品等々は、みな思い切って遠慮してもらった。その成果が御覧の通りになった。

審査には加藤東一先生、工藤甲人先生(片岡球子先生は欠席)と筆者が当って一層飛躍するであろう来年の展覧会を楽しみにしながら審査を終った。

竹田道太郎

- 審査員 加藤東一・工藤甲人・竹田道太郎
- 搬入点数 94点(71人)・入選点数42点(41人)

《洋画》

今回の洋画の搬入点数は水彩34点を併せて646点であった。第16回展に比べ応募点数は増えたが、入選点数はほとんど変わらないので、入選率は13%弱という厳しいものとなった。不幸にして選にもれた作品の中にも、入選作品と比べほとんど優劣がつけがたく、審査を重ねたものも少なくなかった。

審査後の感想を一言であらわすと、総体的に質はよいと思われたが、一方きわだって注目される作品が極めて少なかったと言えそう。勿論、受賞した5名の作品などはそれぞれ個性的であり、ぬきん出た作品である。中でも最後まで大賞を競い惜しくも準大賞となった黒川洋の作品などは大

変秀れたものである。また、近代美術館賞の星兼雄は第16回展の準大賞につぐ受賞でその資質の良さを証明した。モチーフは同じだが構成上大きな工夫が見られ、表現力も向上したと思われ前回の準大賞作に優るとも劣らぬ作品であろう。

準大賞「19」黒川洋、近代美術館賞「階段のある(変容Ⅱ)」星兼雄、美術奨学会賞「行く秋(1)」香川猛、「生誕を祝う合唱」月岡和子、特別奨励賞「SAMAYOI」岡本晋一のうち、香川猛が過去14回入選の実績がある他はすべて県美術展の新人であり、1〜3回の入選経歴である。また、年令も若く、黒川洋、岡本晋一はともに23才の青年であった。出品者層を代表すると言える受賞者を見る限り、第17回を迎えた県美術展にも出品者やその世代の交代のきざしが明らかに現れはじめたと言えるようだ。その他、「人間思考(1)」加藤幸雄、「Construction P-2」西村博美も注目される作品であったが彼等もともに新人である。

受賞作などに代表される作品に新人の多かったことは将来の展望に大いに希望が持てるし、県美術展にとってよこばしいことである。第16回展の審査経過でも新人について言及し、「すでに新旧交代の時期を迎えているかも知れない。県美術展を舞台に秀れた作家が輩出して欲しい。新人の台頭を期待したい。」と結んだが、今回もまたそれを繰り返したいと思う。

國領経郎

- 審査員 小関利雄・國領経郎・佐々木豊・匠秀夫・田代利夫・弦田平八郎
- 搬入点数646点(350人)・入選点数88点(88人)

《版画》

公共のローカル展ということからいえば、制作技術は極めて高い水準といわねばなるまい。このことは賞の内容と関わりがあるのだろうが、今日では神奈川県美術展は恐らく各都道府県の県展の中でも最も技術的質の高いコンクールになっているに違いない。そのことは同時に一般の県民というが、いわゆる市民参加が困難になって来ているといえよう。これは数次の審査に関して気づく点だ。しかし県民の版画に関わる底辺の水準自体が、

かくも高まって来ているのかと受けとめれば、喜ばしいといえることかも知れない。

今回の版画作品の搬入は68人で159点であったが、審査の結果は入選36人の39点となった。点数から見れば可成りの厳選である。技術水準が高いだけに、比較選考すると一応厳選にならざるを得なかった。しかし、このことは必ずしも作品の内容の高さを示しているわけではない。内容的には停滞気味であるというのが審査に関った四人共通の感想である。したがって今回の場合も、優劣の決め手を技術の出来に求めねばならなかったのは甚だ本意なことであった。一口にいってしまえば独創性に乏しいという感想であった。

このような現象のもとには、一つには版画教育普及の中に、一つには情報化社会の中に、それぞれ求められるのではないかという審査の側の声もあり、類形を他に見ない、或いは特異の作品を待望する声があったことを付記しておこう。

賞候補としては菅沼稔、利渉重雄、藤岡慎、小清水量造、高垣秀光、大庭明子の六人。

菅沼の作品は色も形も地味で、格別なことは何もない。何も説明はしていない。にもかかわらず一本一本彫り込まれた線の羅列がフォルムを強靱に定着させ、他の作品の中にあって、ゆるぎない不思議な説得力を発揮している。利渉の作品では、例えばバックの模様化した突起が地平線まで寸分の手抜きなく描き込まれている。本人の性格にもよることだろうし、表現としてそのことの良否はともかく、そういう精緻さが画面を支えているところが快い。色彩と版の意味を氾濫させている折、これら地道な銅版画がかえって目立ったのかも知れない。藤岡は平版の世界でよく重量の質感を出し、高垣は新旧の構造物の対比から感動を引き出そうと苦労している。木版に見るべきものが少ない中で、木版表現に新しい可能性をはらませているといえよう。

野村 博

- 審査員 天野邦弘・野村博・柳生不二雄・渡辺豊重
- 搬入点数159点(68人)・入選点数39点(36人)

《彫刻》

神奈川県美術行政の積極的な姿勢に応じて本年の搬入点数は昨年の51点から77点に増加し、地方展としては空前のものとなった。

県内在住の彫刻人口が非常に増加したことを意味する。

屋外空間に位置する彫刻を志向して大作が増え石彫が増加した。運搬費のかさむ中を出品された方はその負担もたいへんだったと思う。

よい作品は絶対に落とさないことを信条に繰り返し審査は行なわれた。優れた個性を見出そうと審査員も真剣である。出品された方それぞれの自由な制作を大切にすることもあって入選作は幅も広く又増加した。

坂井彰夫の「SEISHŌ」、李赫の「歲月」「詩人の首」、川口シノブの「Tさん」はいづれも完成度の高いものであり、山根隆子の「るん」、桶口重隆の石彫「女子坐像」は観照が素直であり美しい。松本雄治の「サア・女神・天を翔けよう!」は昨年に続いての大作であり労作であるが構築的研究が一層望まれる。来年を期待したい。杉山仁の「目醒め」、金子典義の「渾沌王」は新しいフォルムへの挑戦である。頑張ってもらいたい。

全体を通じて若さと作者の真面目さを強く感じた。 井上信道

- 審査員 井上信道・三上次男・靄山三穀
- 搬入点数77点(47人)・入選点数34点(32人)

《立体造形》

今年の出品点数は昨年に比べてやや減少したが、出品作家数は45人と昨年と同数である。この意味するところは立体造形部門が確実に定着しはじめ数点出品するところを一点に絞った結果である。

加えて20代~40代の年令の幅の広がりとはかく立体造形が若さのシンボルのように思われがちだが、もう一歩進めて考えるならば初めて出品する作家にとっても、じっくり造形に取り組む作家にとっても大切なことの一要素である。

なぜなら不確実な現代社会において創造の糸口を見いだすのにかなりの

年数を必要とするからである。

とにかく第1次の審査の時に無制限に与えられた票を持ちながら、56点中、8点しか選びだせなかったことは僕自身おどろいてしまった。

合議と票の厳しい審査の繰りかえしのうえ、下記のように決定した。

立体造形部門で賞候補に上げられた作家は、小柳幹夫・曽根光子・難波京子・勝又豊子・平野米三・斉藤光弘・大北利根子の7名である。

最終審査の段階でわずかの差で大賞を逸した曽根光子の「Press-A'」は従来の造形形態から一歩進めた、独自性のある感性を見いだす傑出した作品である。

又、立体造形部門で美術奨学会賞を受けた小柳幹夫の「リアクション I・II・III」は3点一組にすることで意図することが明確になり、平面・立体との差異の意味を問いかけ、壁・床・空間と領域の相関性は手堅い空間造形を生み出している。

特別奨励賞は難波京子と勝又豊子の両氏が獲得した。

前者「tension-A」は布を素材にこのところ制作し続けている作家である。黒い一枚の布と透明なアクリル板とのジョイントは、リリカルな空間を作りだし緊張感を抽出した美しい作品である。

後者「更生一忘失からII」は女性では困難と思われる鉄という素材に長年関わっている実力を秘めた作家であり、実存的思考が感じられる。

賞候補に上げられた中で記憶に残る斉藤光弘の紙のシリーズは、紙という素材に対する着眼は買うが紙の特性についての関わりをもう一歩掘り下げる必要があると思われる。

ところで時代の流れを反映してか受賞した4作家中3人の女性が賞を受けたことは特筆にあたいする。

最後に私感であるが作品を制作する以前に作家の〈現代に対する眼差し〉が必要であり〈持続と閃き〉がなければ観る者を前にして引き下がらなければならないであろう。

高橋 勝

- 審査員 倉重光則・斎藤義重・高橋勝・針生一郎
- 搬入点数56点(45人)・入選点数38点(35人)



工藝



書



写真



大賞

高木参平●BODY (工芸)



[illegible]

準大賞

三村守●去りゆく老師（写真）



（モノクロ）

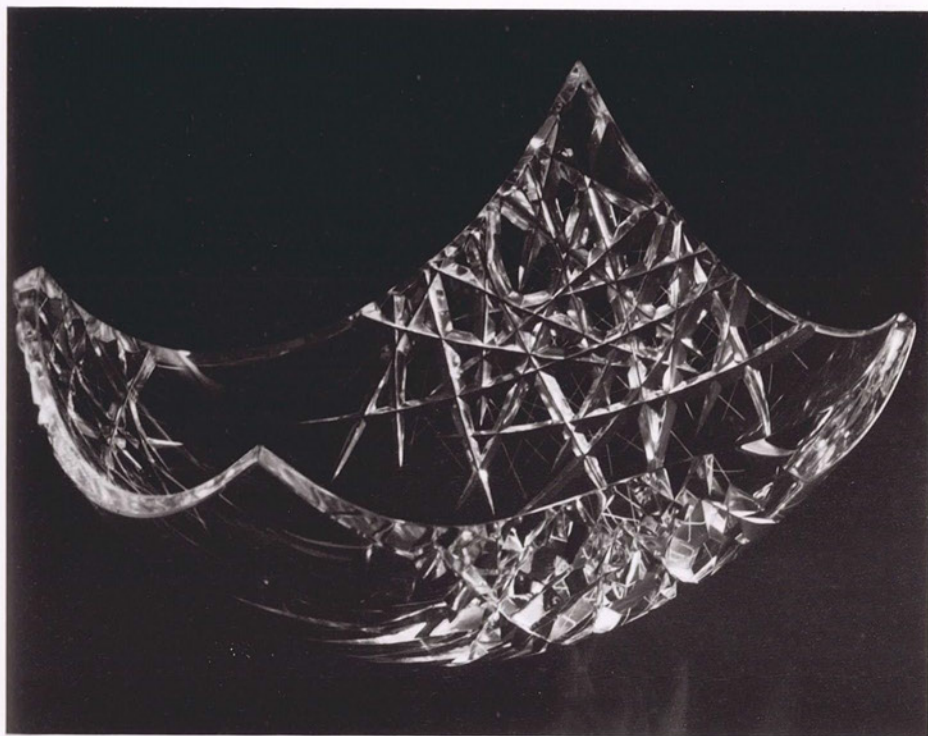
特選

太田光子●アンティーク紋様十段抽出（工芸）



美術奨学会賞

柴崎信太郎 ● クリスタル花器「銀華の舞」 (工芸)



美術奨学会賞

小林望子 ● 悲笑路 (ピエロ) (工芸)



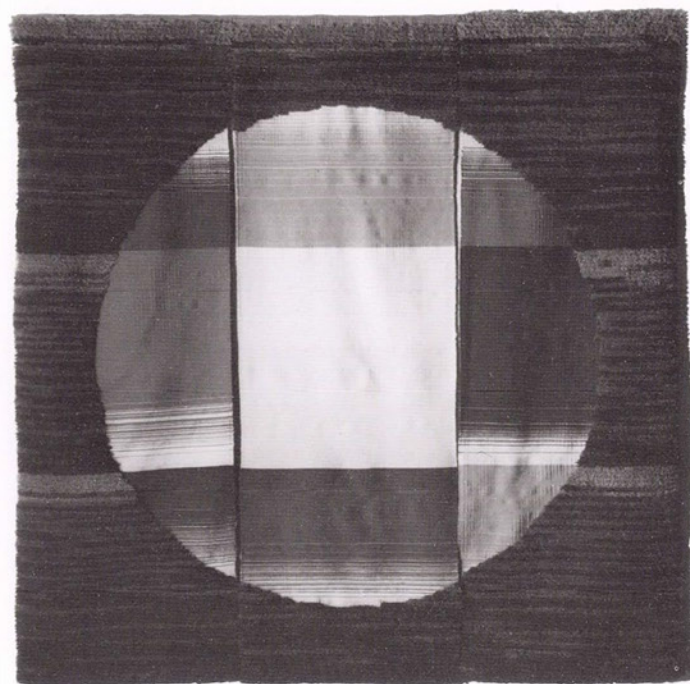
美術奨学会賞

永山登志子●冬（工芸）



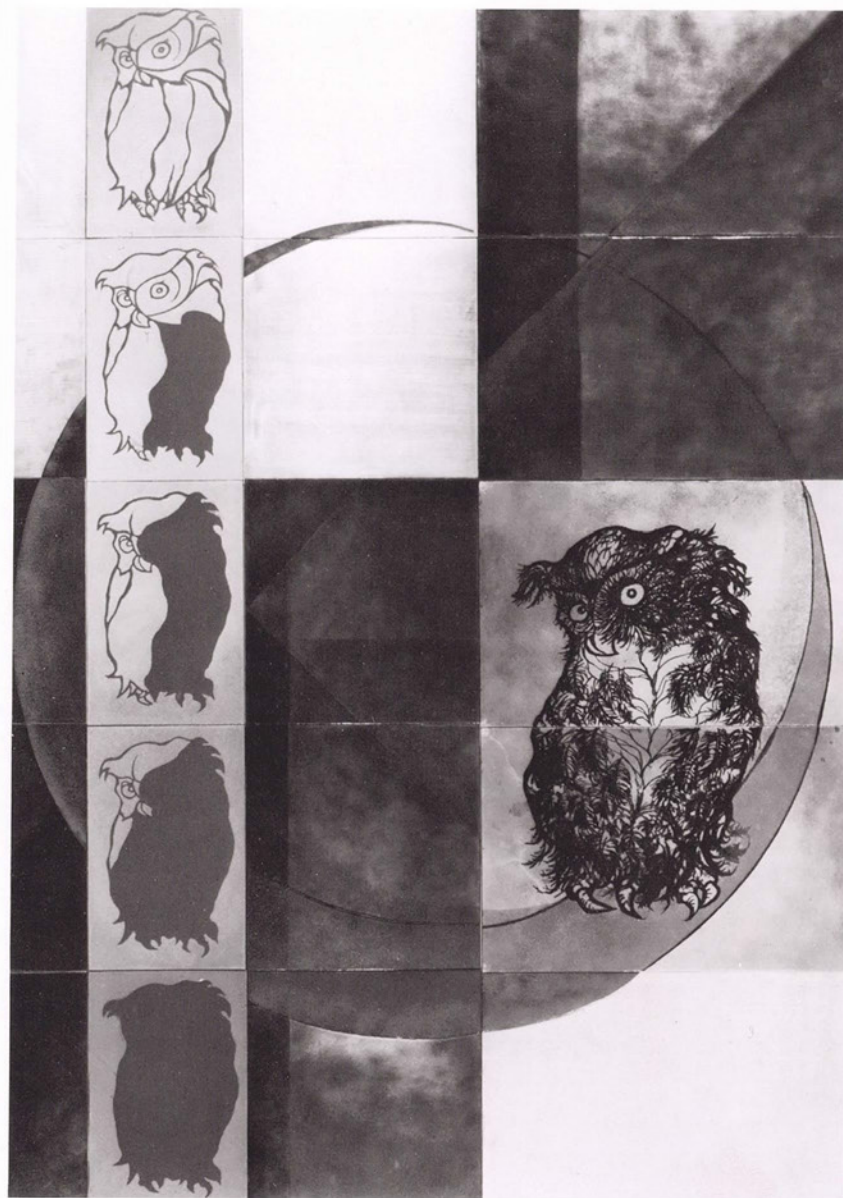
美術奨学会賞

金子菜生●月 1981年9月16日（工芸）



美術奨学会賞

川村伊保江●夜の気配（工芸）



美術奨学会賞

池田撫草●李賀詩（書）

紅使令秦
又對平王
香芳能騎
後歸頭帶
新雲滿遊
前獨酒八
孤瑤塵極
鉄殿酒刺
母明星光
千唐金微
車門槽空
就掌張天
僕事題由
人丁天若
燭報特裁
燃一獨和
熾馬庭敵
輕夢雨日
昏樓脚吸
寒玉來驚
醉鳳以聲
眼報能可
淚嬌酒天
淚輝馳般
素喝盡
從月宿

美術奨学会賞

萩村迪与●夢の竹の林の青み（書）



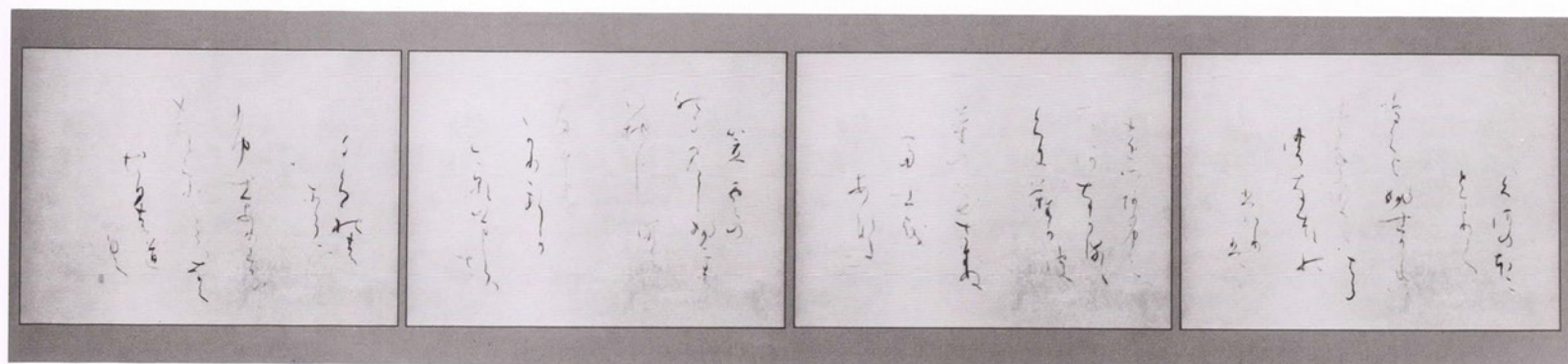
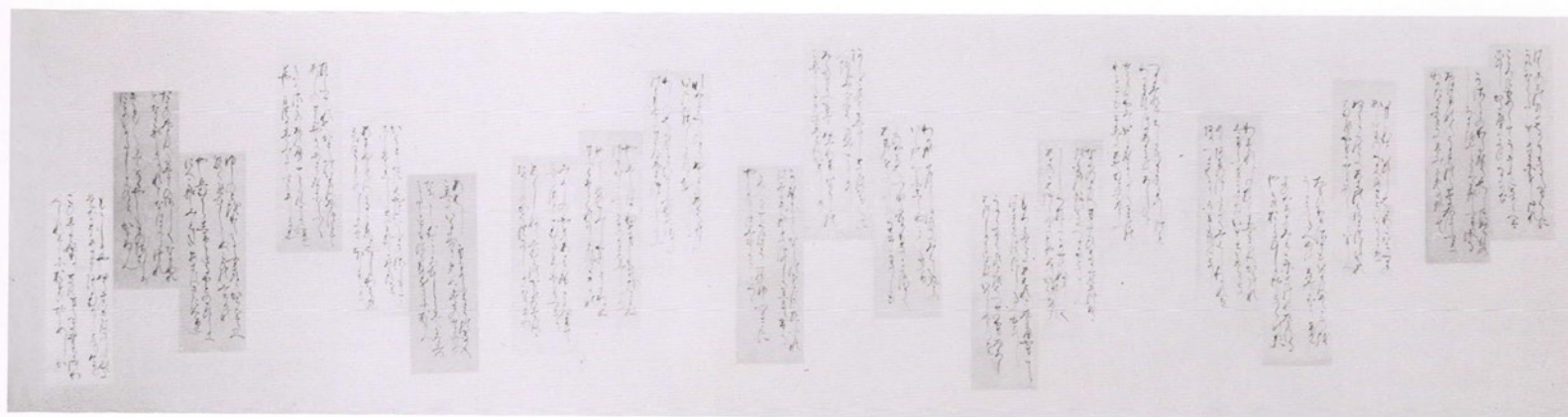
美術奨学会賞

茶木静谷●龍鳳姿（書）



美術奨学会賞

清水蒼洋●小倉百人一首より和歌四十首（書）

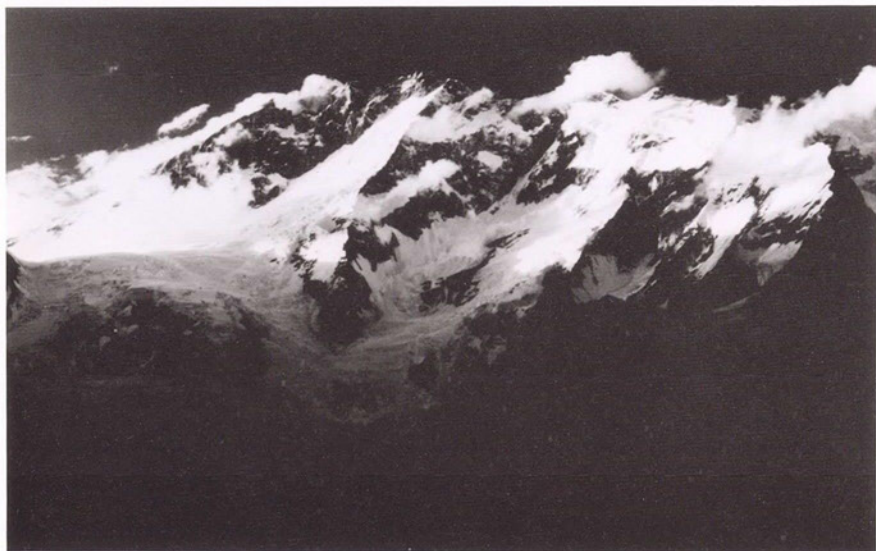


美術奨学会賞

高木幸子●富士の歌（書）

美術奨学会賞

亀井貴司●残照のカラコルム（写真）



（カラー）



（モノクロ）

美術奨学会賞

藤倉忠明●旅役者（写真）

美術奨学会賞

飛田利和●祭りの子供（写真）



（カラー）



（カラー）

美術奨学会賞

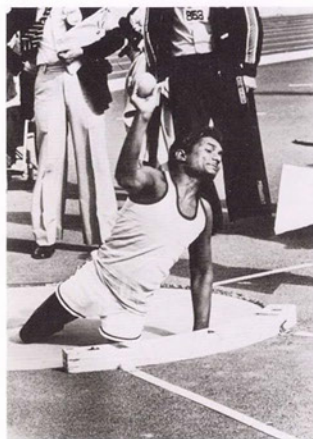
朝香幸男●前線通過（写真）

美術奨学会賞

小室宏●泥んこ祭（写真）



（カラー）



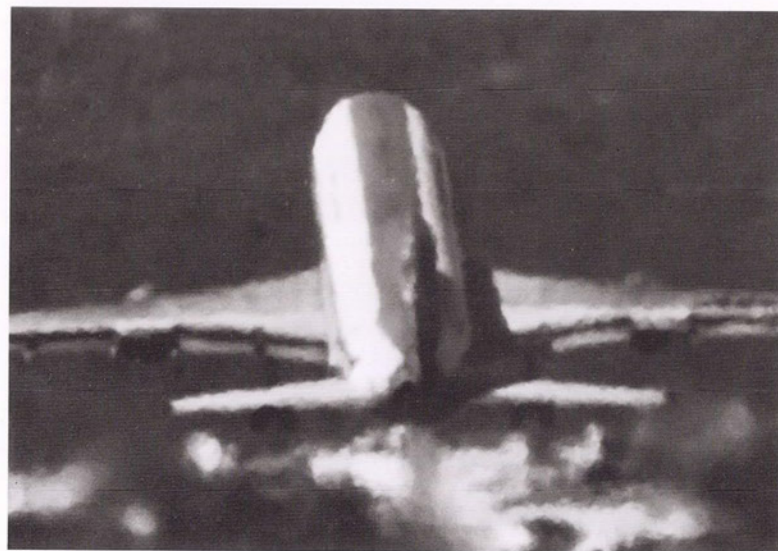
（モノクロ）

美術奨学会賞

荻野功●生きる力Ⅰ～Ⅴ（写真）



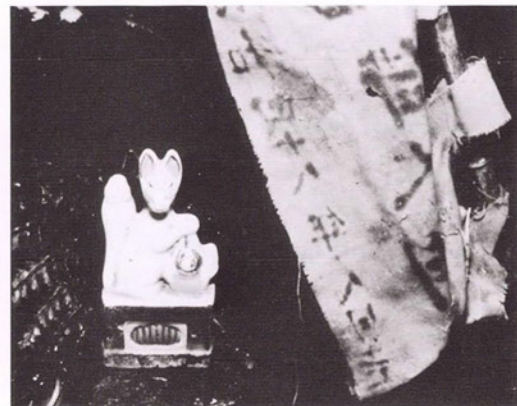
（カラー）



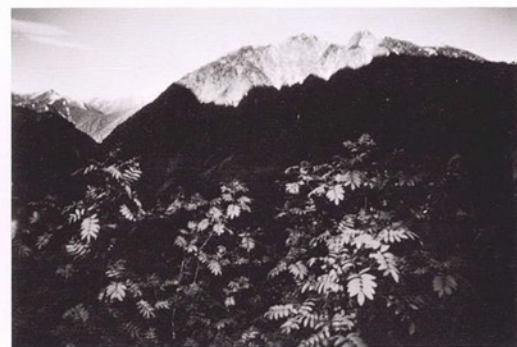
（カラー）

美術奨学会賞

白居一雄●かくれの里（写真）



（カラー）



（カラー）

美術奨学会賞

針田正道●秋色の滝沢（写真）

特別奨励賞

吉田彩●溪谷（工芸）



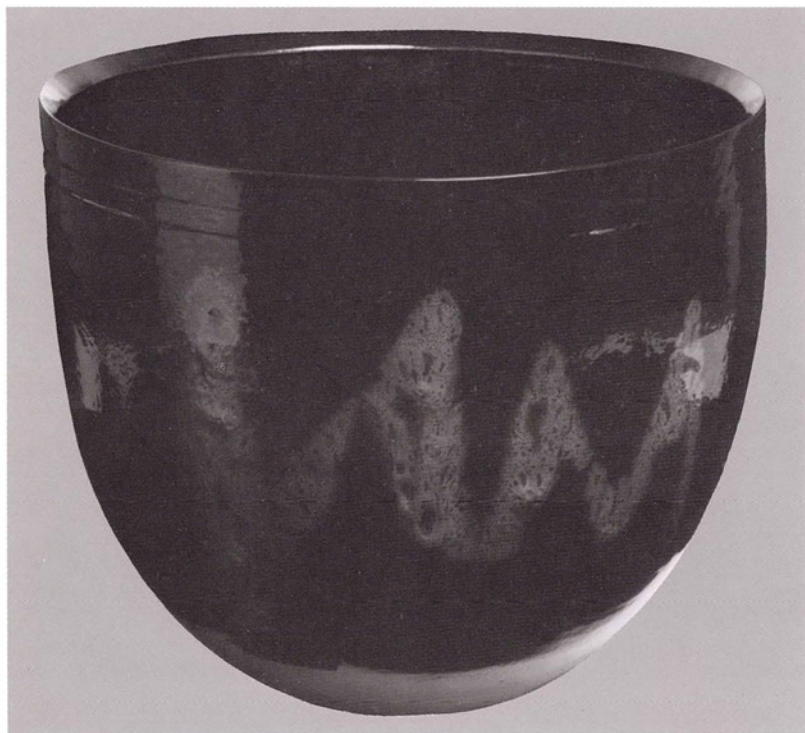
特別奨励賞

平岩共代●NOEMA II（工芸）



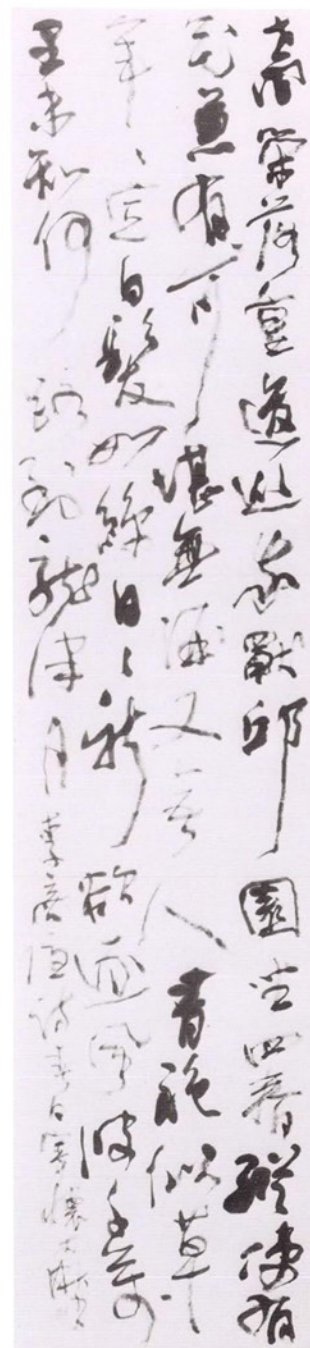
特別奨励賞

田中實●鉄釉鉢（工芸）



特別奨励賞

関口大湫●李商隐詩春日寄懷（書）



特別奨励賞

江川青連●杜甫詩（書）

杜甫詩一首
 東嶽賦元張機傳泰泰理今台仁正肥月輪一十二國語意古吟致重面波下賦書至席席要地之類運耐讀一和世卷之起亦十年漸長
 習汝翁同叔南北國江所阿銀標玉威刺之屏空同也解病元數口山由而啼換園移故竹而月寶雖難由全偷得相園如河下溪水中解意入
 中五區暖下御驅車才氣極多金中疏序呈下言名期冲虛漢竹間江飽不熱村主漢仙首買為一先牛中展信之解去若也曉是
 愛者之寺由端端山畫戲區用面地夢地種在此奉故理給其寺即此良防腫是也院希宏遠人代仰其歷初那野夫不巾觀更郭詩
 杜阿葉臨成神少又替初今正城樓成廣井凡端中波題下若寺日食其轉葉是實恒云贈題版由竹并於影標設友三月

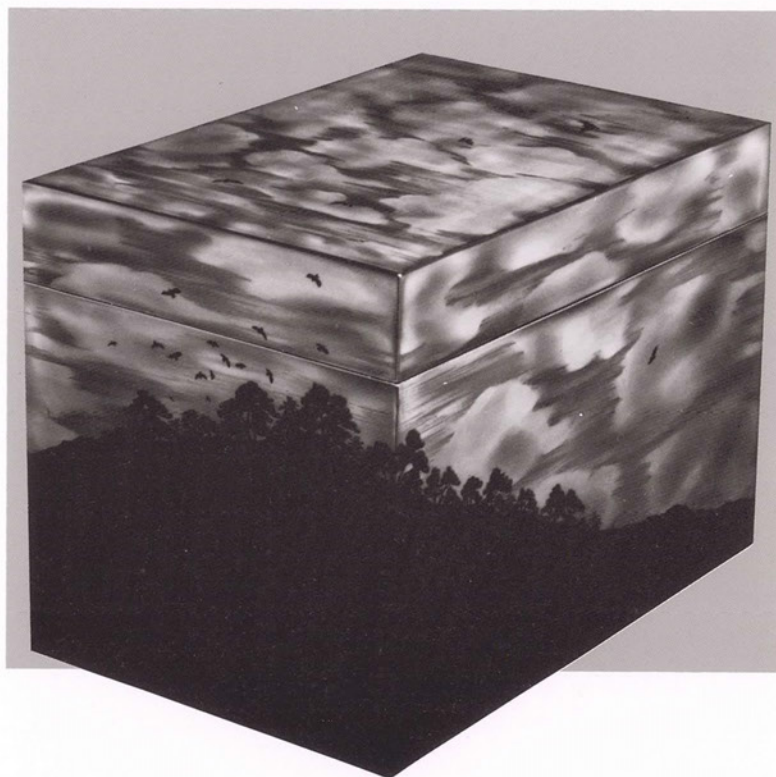
特別奨励賞

奥翠月●金冬心行書詩冊一部（書）

金冬心行書詩冊一部
 杜甫詩一首
 東嶽賦元張機傳泰泰理今台仁正肥月輪一十二國語意古吟致重面波下賦書至席席要地之類運耐讀一和世卷之起亦十年漸長
 習汝翁同叔南北國江所阿銀標玉威刺之屏空同也解病元數口山由而啼換園移故竹而月寶雖難由全偷得相園如河下溪水中解意入
 中五區暖下御驅車才氣極多金中疏序呈下言名期冲虛漢竹間江飽不熱村主漢仙首買為一先牛中展信之解去若也曉是
 愛者之寺由端端山畫戲區用面地夢地種在此奉故理給其寺即此良防腫是也院希宏遠人代仰其歷初那野夫不巾觀更郭詩
 杜阿葉臨成神少又替初今正城樓成廣井凡端中波題下若寺日食其轉葉是實恒云贈題版由竹并於影標設友三月

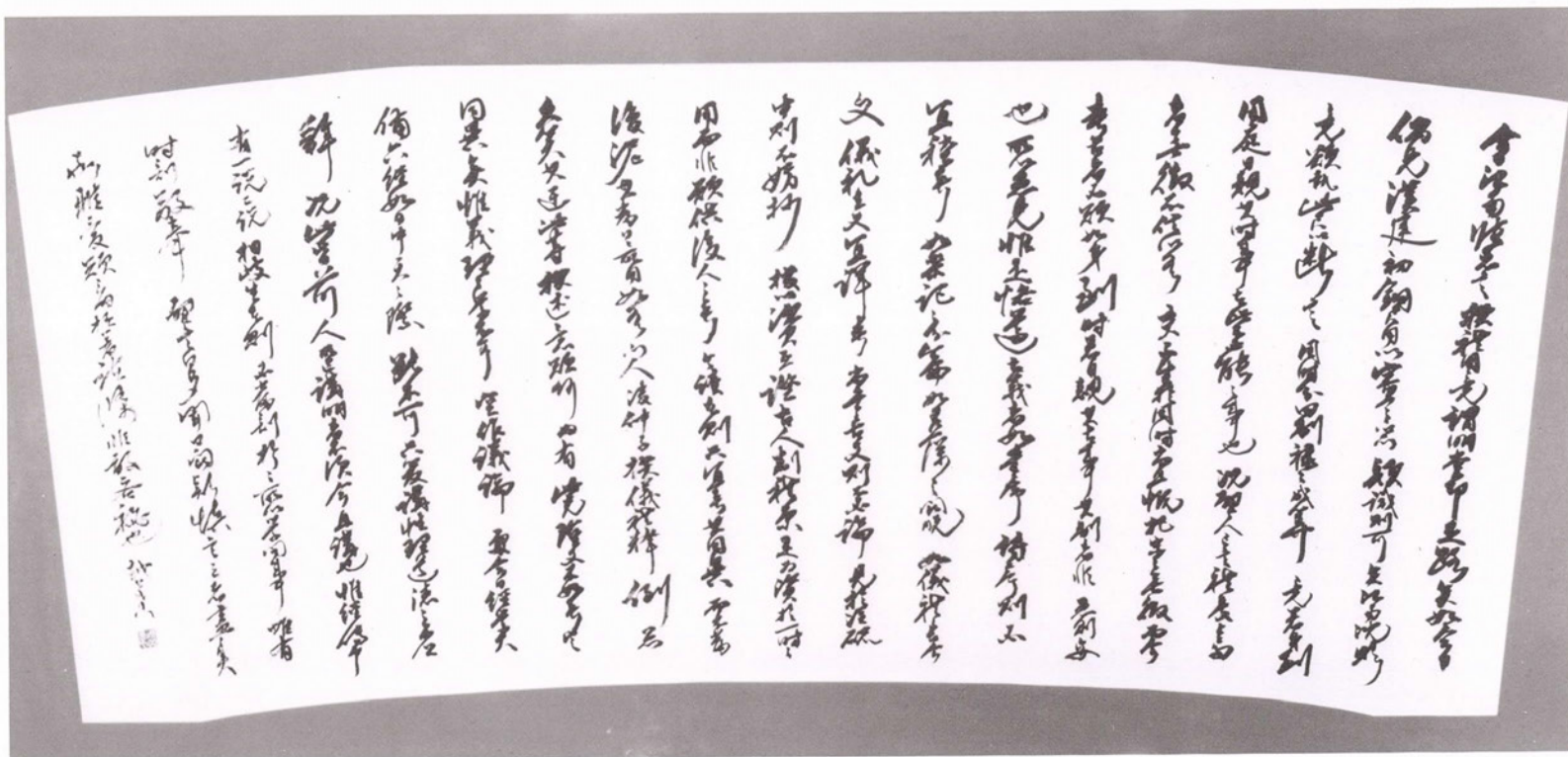
特別奨励賞

鈴谷茂翁●たそがれ茶箱（工芸）



特別奨励賞

須貝越葉●翁方綱（書）



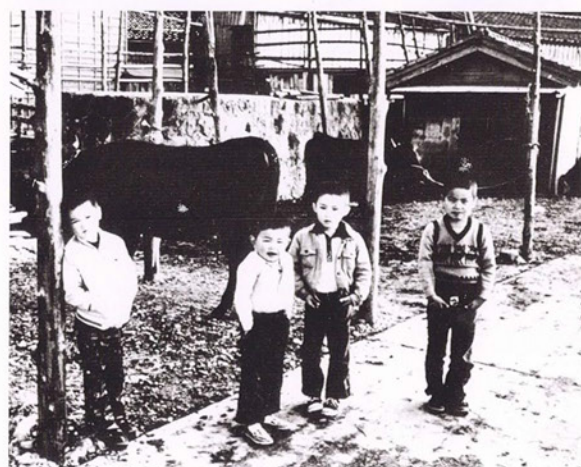
（モノクロ）

特別奨励賞

千葉久男●土に生きる（写真）

特別奨励賞

川口弘純●島からのたより〈佐渡〉（写真）



（モノクロ）

■受賞作品目録

(工芸・書・写真)

●大賞 高木 参平 BODY(工芸)

●準大賞 土山美智子 針切(書)

三村 守 去りゆく老師(写真)

●特選 太田光子 アンティーク紋様十段抽出(工芸)

●美術奨学会賞

小林 望子 悲笑路(ピエロ)(工芸)

川村伊保江 夜の気配(工芸)

柴崎信太郎 クリスタル花器「銀華の舞」(工芸)

永山登志子 冬(着物)(工芸)

金子 菜生 月 1981年9月16日(工芸)

茶木 静谷 龍鳳姿(書)

萩村 迪与 夢の竹の林の青み(書)

清水 蒼洋 小倉百人一首より和歌四十首(書)

高木 幸子 富士の歌(書)

池田 撫草 李賀詩(書)

藤倉 忠明 旅役者(写真)

片岡 順一 飛翔(写真)

針田 正道 秋色の涸沢(写真)

臼居 一雄 かくれの里(写真)

望月 勝美 公園(写真)

飛田 利和 祭りの子供(写真)

小室 宏 泥んこ祭(写真)

荻野 功 生きる力Ⅰ～Ⅴ(写真)

亀井 貫司 残照のカラコルム(写真)

朝香 幸男 前線通過(写真)

●特別奨励賞

鈴谷 茂翁 たそがれ茶箱(工芸)

吉田 彩 溪谷(工芸)

平岩 共代 NOEMAⅡ(工芸)

田中 實 鉄釉鉢(工芸)

江川 青連 杜甫詩(書)

関口 大湫 李商隠詩“春日寄懷”(書)

須貝 越葉 翁方綱(書)

奥 翠月 金冬心行書詩柵一部(書)

千葉 久男 土に生きる(写真)

川口 弘純 島からのたより(佐渡)(写真)

■入選作品目録

《工芸》

林 亘 クリスタル花器「俊切」
 中 沢 秀 糸のたわむれ
 秦 敬 子 映
 大 槻 昌 子 金小箱
 斉 藤 典 子 室内
 奥 田 光 代 海その1
 渡部はつ子 波
 斉 藤 由 一 透胎七宝・あかり4号
 桑 原 平 治 花器
 矢内寿津子 斑鳩静想
 無心
 小野寺和子 唐丸
 中 野 幸 男 波稜
 瀧 川 政 之 幽明境
 中 山 啓 子 波動
 門田ヒロ子 慕情
 鐸 木 能 子 猷柳(シルクロードの旅)
 菅野かほる 壺
 浅 見 良 美 紅葉のころに
 高 橋 洸 江 歌物語第一章紫のパーティー
 小 山 岑 一 種子島壺
 小峰枝美子 象嵌花挿狩衣
 小見山康子 波景
 加 納 長 作 練上壺
 中 谷 安 子 アモン(エジプト)
 渡辺恵美子 翔
 山 下 静 子 藤文額
 萩 田 道 子 立ち話し
 菊池さち子 織着尺
 長 澤 義 春 練込壺
 村 主 武 ペルシャ青磁口細壺

田 野 佳 代 子 all the way
 内 田 悦 代 風の音
 伊 藤 誠 二 ドーモ
 伊 藤 千 枝 子
 出 縄 高 昭 ソウル
 後 藤 よ し 江 絨織物“春”
 夷 塚 伸 子 パルサー
 岡 本 裕 子 プロムナード
 宮 道 ユ キ 子 手付盛器
 原 田 光 子 連立花器
 足 立 治 男 練込「氷輪」
 久 野 正 雄 作品81-11
 駒 形 克 明 有珠火山灰釉壺
 清 野 一 郎 朱斑紋大鉢
 岡 田 稔 乾裂
 三 村 哲 夫 オデッサ(自然破壊)
 鈴 木 亘 練上壺
 小 林 公 子 絆
 北 野 淳 子 輝
 須 藤 景 空間の遊び
 武 田 春 比 古 青釉彩鉄赤花瓶
 大 津 絢 子 天の実
 北 田 博 美 絹草木染着尺「さび」
 服 部 敦 子 ある夜
 高 橋 あ つ 子 ミラージュ
 森 岡 ゆ か り 迫る
 坂 井 輝 夫 堆彩幾何学文青釉鉢
 亀 倉 芸 A→D
 人 見 啓 一 魚文壺
 後 藤 寿 美 恵 想
 乗 松 清 子 海響
 中 曾 根 馨 羽毛文花瓶
 芥 川 美 千 代 花蜻蛉
 市 川 博 子 経緋織布(赤)
 米 山 光 窯変壺
 萩 野 紀 子 茶入

高 橋 操 わっしょい
 原 田 文 雄 ホワイト・ピークⅡ
 池 田 篤 子 七宝合子
 山 本 多 江 子 LOOP Au79
 佐々木達行 三島魚文壺
 倉 田 俊 一 なら彫抜短冊箱
 広 瀬 克 己 四稜鉢
 山 田 美 穂 子 Kiito
 中 谷 重 明 ZIGZOU-chintz
 高 垣 篤 大壺A
 八重森千賀子 母恋
 山 田 御 秩 子 目覚め
 山 崎 隆 雄 陶木
 青 木 博 美 BIRD
 武 井 源 蔵 櫓木地呂
 石 川 武 士 タイム・I
 青 山 常 昭 鎌倉彫「梅花文短冊箱」
 永井ひとみ 染織「射光」
 ハッ橋博美 窯変淡緑壺
 平 山 敏 文 コラーユの壺
 佐 野 陽 三 菓子器
 井 上 達 樹
 中 尾 雅 子 Crossing
 小 林 信 子 染額「旅情遥か」
 尾 留 川 忠 刀文喰籠
 村 山 大 進 作品
 伊 藤 修 ようせい
 三 輪 博 子 惜別
 桂 川 幸 助 葉と風

《書》

原 田 義 鳳 王鐸詩
 山 本 花 聲 唐詞
 高 橋 蒲 川 唐詩

八 島 幽 月 聖徳太子法華義疏
山 田 愁 風 金冬心
高 橋 利 子 吳昌碩
川 上 光 雲 弘宙碑
川 越 秋 聲 王守仁“阿陋軒記”
稻 垣 皐 人 唐詩
鈴 木 静 香 王鐸
関 春 宵 吳昌碩
三 津 木 芝 影 杜甫詩
青 蔭 清 節 落霞
鈴 木 可 奈 元永古今集
河 村 康 子 針切臨
伊 藤 青 光 なびき寄る
井 川 益 子 関戸古今集臨
齊 藤 杏 花 杜甫詩
瀬 戸 萃 逕 潘岳詩
武 田 清 美 梅堯臣詩
中 村 蒼 汀 杜甫詩
立 神 侯 子 許渾詩
荒 井 寿 逕 張說詩
松 橋 秋 塘 徒然草
山 辺 静 塘 小倉百人一首
松 岡 梅 影 関戸本古今集
日 野 珠 光 花の歌
吉 川 蕉 雨 本あみ
豊 崎 花 鳩 小倉百人一首
大 畑 蕙 昭 万葉歌一首
明 石 蕙 州 万葉歌一首
泉 金 映 万葉の歌
竹 田 華 堂 和歌二首
川 手 敬 湖 臨住古歌合
北 島 芳 谷 妙法蓮華經“觀世音菩薩普門品第25”
萩 原 華 徑 齋宮集
登 坂 天 夢 李白詩・古風
山 口 清 晞 杜甫詩
小 卷 仙 空 高青邱詩

横 山 芳 碩 吳偉業詩
神 谷 芝 崙 傅山詩
安 藤 蘆 穂 李賀詩
三 浦 美 園 李遠詩
石 井 澄 水 白居易詩
尾 家 靖 子 蘇東坡詩
高 崎 隼 崙 黃庭堅詩
原 茜 処 高適詩
田 澤 兆 処 蘇軾詩
柴 岡 明 洞 李遠詩叢苔
尾 崎 静 鳳 蘇軾詩
加 藤 州 処 石季倫詩
鎌 田 柊 処 春山道中寄孟侍御
菅 野 堯 処 長歌行
谷 口 春 泉 高啓詩
石 坂 梓 杲 姚合詩
鈴 木 蓉 処 杜甫詩
近 藤 春 柳 劉長卿
佐 藤 柚 処 李長吉詩・湖中曲
玉 井 佳 香 元稹詩
森 草 坡 菅原道真詩
吉 田 翠 山 王昌齡詩
阿 部 跳 龍 古詩
阿 部 紅 雪 白樂天詩
吉 沢 菁 蕪 徐敬業詩
杉 山 紫 苑 李賀詩
大 山 青 高 寧
結 城 義 雄 王昌齡詩二首
横 田 南 畦 李嶠詩
田 村 青 幽 杜甫詩
田 中 照 峰 陳鴻壽之詩
田 村 松 石 漢詩(白居易)
飯 田 美 砂 子 母恋し
山 本 右 高 李嶠詩
土 屋 実 智 子 祝允明
榎 原 右 鳳 小島切抄

木 須 青 苑 杜甫詩
本 田 明 陽 宋羅大經玉露一段
園 田 祥 陽 杜甫詩
橋 本 抱 葉 黃山谷詩
佐 藤 緑 羊 白樂天詩
藤 崎 小 洞 紅梅
横 山 蘭 葉 新安吏
富 山 陽 寿 劍門
林 如 巖 良寛詩
砂 川 旬 村 柳宗元詩
沓 掛 和 絵 月見草
富 岡 登 陳風“東門之池”
栗 原 笙 如 良寛詩
石 坂 雅 彦 唐風蟋蟀
佐 々 木 暢 香 良寛詩
石 井 富 代 富士山見たら
大 村 雅 子 八木重吉詩
大 木 暁 旧約聖書“詩篇92篇12節”
大 内 柴 石 雨はふる
小 野 寺 聖 石 林檎の花の下にて
上 村 仙 石 窪田空穂集より“まひる野”
小 山 誠 一 近代詩文
“雪の舞ふ山里ひとり寂をきく”
木 曾 美 津 子 空
川 島 喜 代 美 王士禎詩
川 瀬 魚 石 三好達治
落 合 正 峰 七言古詩“高都護馳馬行”
岡 馬 敬 竹 石川啄木詩“秋”
普 川 清 子 近代詩文
渡 辺 美 代 子 若山牧水“うらの田圃”
吉 川 敦 子 秋萩
柳 原 修 若山牧水詩
矢 追 章 子 古野
森 山 可 余 泪
和 気 正 直 李白詩“春日醉起言志”
石 川 藤 子 朝日をよめる歌

岩井明子 わが心……
 座間幽洋 王維詩
 小松崎史子 唐詩
 原 幸子 あのこと、このことも
 吉浜 薫 竹久夢二詩
 井上きみえ 君
 長島正恵 梁塵秘抄
 柳澤弘子 おもひつゝ
 斉藤喜淑 七言絶句
 菅原秋峰 漢詩
 武井美梢 関戸本古今集臨書
 今本早智子 短歌一首
 栗橋東崖 白居易詩“長恨歌”
 三原和子 信濃路
 松永光鳳 徒然草より

《写真》

安藤 廣 富士
 矢花一弘 THE LAND
 安藤光一 童心
 中嶋直子 野猿の姉御
 勝俣晃男 キャベツとタマネギ
 新井利行 夜明けのシンフォニー
 渡辺恒美 静秋(PRO CARITATE
 ET PACE)
 大山行男 冬の月明
 斉藤静男 巡礼(秩父にて)
 吉田一雄 越中おわら節
 越川敏子 早春のうた
 宇野良美 雪山賛歌
 各務秋雄 最乗寺の多宝塔
 栗田孝之 射
 山田博之 雲
 大島清秀 男の祭り(秩父川瀬祭り)

川村 栄 いろり
 山本梅吉 七里ヶ浜
 菊地原俊二 水の詩
 榎田 守 晩秋の三浦
 草柳 央 幻妖舞(ファンタジック)
 望月勝美 ロープ
 岩本 敏 初冬の白根山
 佐藤力三郎 ぬれた子犬
 霧の白根にて
 櫻橋晴雄 湖畔の雪
 佐藤吉孝 田んぼ
 山口栄次郎 去来
 野田茂十 印象・鎌倉
 三井文一 黎明
 横山保光 戒
 峰 敬 蓮
 斉藤太郎 石仏と虫
 栗原寅吉 行
 藤原義守 裸形
 堀坂和夫 攻防(全国社会人ラグビー大会)
 村上昭子 グラナダの道
 若月正重 自然の詩・四季
 増田智生 雪原のステージより
 土屋誠一郎 初秋のせせらぎ
 小宮信幸 シュカブラ
 人見治雄 華に魅せられて
 木村武司 なかよし3人
 木村朋行 原宿狂想曲
 福岡正夫 鎌倉の花火
 チャッキラコ
 赤石行造 つつじ
 相沢正一 船おろし
 坂場 孝 トレーニングの朝
 松川忠夫 長谷の大仏
 青木繁雄 1982年の顔
 眞々田眞 踊り子

萩原新八 秋映(西吾妻)
 堀江忠男 流れの涯
 佐々木孝義 小さな苦しみ(賢臓透析)
 石川 清 豆撒き
 後藤陽吉 春の尾瀬
 宇田 勉 子供相撲
 石渡四郎 水子地藏
 山下昭雄 草露の女
 幡野浩祥 流鏑馬(鎌倉)
 成田光芳 千島を返せ
 乙黒智子 新入生歓迎会
 梅田 章 越中高岡まつり
 河合勝衛 駅
 山口順正 想悶花
 渡部 満 少女
 今村重明 岳嶺雪景色
 清水 光 夕紅
 中西栄造 冷氣
 君田淳一 子供達
 湯口栄二 残月
 竹内光真 檻
 松浦好雄 沈み行く村 宮ヶ瀬からの便り
 (卒業の日)
 喜入道雄 ミッドウエー&横須賀
 中村順子 ヘラートの街角にて

■ 審査経過

《工芸》

今回は工芸の応募総点数が前回の252点を上廻って267点と聊か増加している。その審査方法は、審査員全員があらかじめ用意されていた1から267までを記載した番号表の横に、その作品が入選に価するか否かを○と×とで意思表示することから先ずはじめられた。

これは各自が一点一点を慎重に眺め、あるいは手にして見るなど、時間はかかっても他からわずらわされることなく自由に選考することが出来るやり方として全員賛成で行われたのである。その結果、各作品について○を取った数を計算し、審査員数の過半数以上を取ったものを一応入選とし、さらにその中で同一作家のものが2点以上あった場合には、全員で討議して必ずそれを1点にしぼっている。この段階で甚だ惜しい作品が選外にされてしまったが、少しでも多くの新人や作家に入選の機会を与えようという主旨からのことなので、該当された方はどうか御諒願いたい。

次で審査は一応落選となったものでも、各自審査員が入選に価すると信じるものを一定の場所に再び持ち出してこれを全員で討議し、過半数以上の賛成があれば入選させる方法をとった。同時にまた、たとえ一応は入選していたものでもこれと逆の方法で落選させられる作品もあるのである。このようにして今回は106点が入選と決ったが、引続きその中から賞候補作品が投票によって逐次決められた。そしてその最上位3点が大賞選考の会議に出された結果、はからずも工芸が大賞と特選の二賞を受賞出来たことは喜びに耐えない次第である。

〔大賞〕高木参平作(BODY)中郡二宮で窯を持ち9年のキャリア。半磁器に鉄分を含んだ土の化粧掛をし、白い線はテープで抜いて白釉を象嵌してある。単明なフォルムが魅力的である。県美術展入選3回、32歳。〔特選〕太田光子作(アンティーク紋様十段抽出)鎌倉在住で鎌倉彫歴18年。柱の材質を半年かけて彫り上げ、感覚的にも新しく造形的にも無駄がない。県美術展入選7回、61歳。〔美術奨学会賞〕5名(人形)小林望子作(悲笑路)横浜在住、68歳。(七宝)川村伊保子作(夜の気配)横浜在住、22歳。(硝子)柴崎

信太郎作(クリスタル花器“銀華の舞”)横浜在住、34歳。(刺繍)永山登志子作(着物“冬”)鎌倉在住、46歳。(織物)金子菜生作(月1981年9月16日)横浜在住、24歳。〔特別奨励賞〕4名(漆芸)鈴谷茂翁作(たそがれ茶箱)横浜在住、58歳。(陶芸)吉田彩作(溪谷)厚木在住、33歳。(金工)平岩共代作(NOE MA II)横浜在住、32歳。(陶芸)田中實作(鉄釉鉢)茅ヶ崎在住、44歳。以上が今回の受賞作品である。

吉田耕三

- 審査員 石川充宏・石塚直治・各務鑑三・後藤俊太郎・前田金彌・松浦松夫・水野矯夫・安田律子・山田智三郎・吉田耕三
- 搬入点数267点(170人)・入選点数106点(105人)

《書》

県美術展における書部門も既に17回を数え、逐年その内容を高めつつあり、初期の頃に比べれば、格段の差違が感ぜられる。本年の応募点数は211点、うち136点の入選で、6割4分強というかなりの厳選となっており、書部門に関する限り他府県に比肩してもレベルの高い作品群といえよう。

全体的には、その内容は漸時高まりを見せており且つ平均化してきたことである。分野別にいえば、仮名作品になかなかの優作が多かった。又、漢字作品は数においても本展の主流をなすものながら、沈滞気味である、ややもすると師風の継承的な作風が目立ち、各々の個性を伸ばした所謂創意と新味に欠けるようである。近代詩文作品については、其の表現に種々の工夫の跡が見られ、佳品が多く、この分野の着実な進歩を示すものである。

次に入賞作品では、準大賞の土山美智子の作は古典味をしっかりとふまえ、しかも筆力横溢した秀作である。欲を言えば用紙の使い方を一考すれば更に生彩が加わったことと思う。美術奨学会賞の茶木静谷は大字三字を雄渾にまとめ上げて効果的である。但し、「龍鳳姿」と良い字形なのでこれに行体を加味したらもっと緊張感が生れたかも知れぬ。同じく美術奨学会賞の萩原迪与の作品は所謂詩文書として余白を生かして情緒溢れる、作品で

あった。これは作家の情感の投影と相まって新鮮さを感じる。同美術奨学会賞の清水蒼洋は仮名作品を短冊のスタイルに巧みに配置して効果を挙げており、しかも筆力も雄健であった。以上入賞作二、三にふれたが、書は、極めて長い期間の習熟を要しながら、かつ瞬間的な制作にかかわるので、選文、布置、構成等、制作以前の配慮が重要であることは言を待たない。その意味においても次は各自がそれぞれ創意の下に新味と独自性の発揮を期待するものである。

殿村藍田

- 審査員 青木香流・池上鶴洋・重田翠村・鈴木小江・仙場右羊・殿村藍田・比田井南谷
- 搬入点数211点(211人)・入選点数136点(136人)

《写真》

写真は長く外面のみを写してきた。内面を写したいと思ったときから、新しい境地がはじまる。組写真の使い方も、ストーリーを追うことばかりが能でなく、多数の写真を使って、内面描写の一助にされたい。外面だけを撮ることは易しいが、内面を映像化するのは難しい。不可能だと匙をなげる人もある。人物・事物・風景と、あらゆる社会現象の内面を彷彿させるために、どうしたらいいかを考え悩み研究し実験してみることが、正攻法の第一である。

準大賞の三村守の「去りゆく老師」は、内面描写の作品である。定年で学校を去る老校長の惜別の思いが、さすがによく写されている。適切な表情を捉えることによって、校長先生の内面的な心情を表現することに成功した。藤倉忠明の「旅役者」は、村祭りの芝居の楽屋の騒然たる雰囲気、実によくでている。座頭の顔、脇役のおばさん達、子役の娘、旅役者の群れを描いて秀逸である。片岡順一の「飛翔」は、飛行機の題材を追いつづけて、毎回傑作を創作しているのに脱帽する。臼居一雄の「かくれの里」は、佐助稻荷の風物が妖しいカラーの発色で、興味ぶかく描かれている。

鎌倉のこのあたりの町名はかくれ里で、これからも妖怪変化のムードをいろいろ見せてほしい。望月勝美の「公園」は、秋色の公園風景がロマンチックに描かれて、このムードは、たまらなくいい。飛田利和の「祭りの子供」は、火祭りを子供に焦点を合せて、どンドン焼きの風物詩として軽く歌いあげている。小室宏の「泥んこ祭」は、色がいい。きれいな泥んこ祭の表現で成功した。真中の写真がきいている。萩野功の「生きる力」は、身障者の運動大会の真剣な表情を捉えて、生きることの尊厳さを描いている。身障者年にふさわしい一編だ。千葉久男の「土に生きる」は、遮二無二、農村の生活をだそうとした努力を買う。この作者にはユーモアがある。針田正道の「秋色の涸沢」は、山の写真三枚の変化のみせ方が効果的であった。朝香幸男の「前線通過」は、美しい風景写真の中に唯一つ、台風きたるの社会現象として捉えたことで成功している。亀井貴司の「残照のカラコルム」は手堅い作品。川口弘純の「島からのたより」は、ローカルカラーのよさが光っていた。

奥村泰宏

- 審査員 奥村泰宏・岸哲男・田中雅夫・藤田直道・細江英公
- 搬入点数320点(163人)・入選点数161点(86人)

■大賞受賞者

-
- | | | | | | |
|-----|------|-----------------------------|------|------|-------------------------|
| 第1回 | 40年度 | 大森運夫「九十九里」《日本画》 | 第9回 | 48年度 | 石川充宏「Girl in chair」《工芸》 |
| 第2回 | 41年度 | 廣瀬義男「作品Ⅰ」《洋画》 | 第10回 | 49年度 | 大山 鎮「語り」《日本画》 |
| 第3回 | 42年度 | 垣内治雄「坐る」《彫刻》 | 第11回 | 50年度 | 鎌田恵子「Lost my way」《工芸》 |
| 第4回 | 43年度 | 川村直子「69-A・69-B」《洋画》 | 第12回 | 51年度 | 泉谷淑夫「愁傷のモニュメント」《洋画》 |
| 第5回 | 44年度 | 山井イク夫「Lady70-1・2」《立体造形》 | 第13回 | 52年度 | 井上 麦「黒の女-’77」《彫刻》 |
| 第6回 | 45年度 | 伊藤 彬「天涯巡礼」《日本画》 | 第14回 | 53年度 | 坂田一之「MIRROR」《立体造形》 |
| 第6回 | 45年度 | 大久保利圀「作品Ⅰ」《工芸》 | 第15回 | 54年度 | 前本利彦「暗い部屋Ⅰ・Ⅱ」《日本画》 |
| 第6回 | 45年度 | 西川万象「慮子諒詩」《書》 | 第15回 | 54年度 | 川口流坡「菅原道真詩」《書》 |
| 第6回 | 45年度 | 加賀谷武男「NONSENSE ZONE」《写真》 | 第16回 | 55年度 | 和久井Who「HANGING」《立体造形》 |
| 第7回 | 46年度 | 中西新太郎「落日」《洋画》 | 第16回 | 55年度 | 市原欣一「ふるさと」《写真》 |
| 第7回 | 46年度 | 島津碧崙「寒山詩」《書》 | 第17回 | 56年度 | 坂井彰夫「SEISHO」《彫刻》 |
| 第7回 | 46年度 | 大谷正夫「師ミス・ザンダー(フェリス女学院)」《写真》 | 第17回 | 56年度 | 高木参平「BODY」《工芸》 |
| 第8回 | 47年度 | 佐々木英夫「人間の風景Ⅰ・Ⅱ」《版画》 | | | |
| 第8回 | 47年度 | 林 良達「騎士」《工芸》 | | | |
| 第9回 | 48年度 | 河原 明「蜻蛉」《彫刻》 | | | |

■第17回神奈川県美術展委員会組織

-
- 顧問 ————— 《日本画》小倉遊亀・中島清之・山本丘人 《洋画》小山敬三・斎藤義重 《彫刻》
圓鐸勝三・高田博厚 《工芸》赤地友哉・各務鑑三・蓮田脩吾郎 《書》殿村藍田・
比田井南谷（順不同）
- 委員会委員 ————— 委員長／上野 豊 副委員長／李家正基・神戸由雄・菅原寿雄・匠 秀夫・竹田道太
郎・土屋利保・三上次男・吉田耕三・加藤東一・國領經郎・斎藤壽一・井上信道・斎
藤義重・各務鑑三・殿村藍田・奥村泰宏（順不同）
- 大賞・準大賞選考委員 ————— 《日本画・洋画・版画・彫刻・立体造形部門》天野邦弘・井上信道・加藤東一・國領
經郎・斎藤義重・匠 秀夫・竹田道太郎・弦田平八郎・針生一郎・三上次男・柳生不
二雄（順不同） 《工芸・書・写真部門》奥村泰宏・各務鑑三・岸 哲夫・菅原寿雄
・殿村藍田・山田智三郎・吉田耕三（順不同）
- 審査員 ————— 《日本画》片岡球子・加藤東一・工藤甲人・竹田道太郎 《洋画》小関利雄・國領經
郎・佐々木豊・匠 秀夫・田代利夫・弦田平八郎 《版画》天野邦弘・野村 博・柳
生不二雄・渡辺豊重 《彫刻》井上信道・山本正道・三上次男・靱山三穀 《立体造
形》倉重光則・斎藤義重・高橋 勝・針生一郎 《工芸》石川充宏・石塚直治・各務
鑑三・後藤俊太郎・前田金彌・松浦松夫・水野矯夫・安田律子・山田智三郎・吉田耕
三 《書》青木香流・池上鶴洋・重田翠村・菅原寿雄・鈴木小江・仙場右羊・殿村藍
田・比田井南谷 《写真》奥村泰宏・岸 哲男・田中雅夫・藤田直道・細江英公
（五十音順）

● 実行委員

《日本画》浅見信夫・大山 鎮・能島和明 《洋画》阿部和美・今関一馬・大里光春・
木村一生・白鳥三郎・田口弘勝・兎 月人・内藤雅彦・吉崎道治 《版画》田島宏行・
西田知子・由木 礼 《彫刻》垣内治雄・河原 明・渋谷武美・松田喜三郎 《立体
造形》鈴木 明・中島けいきょう・望月菊磨 《工芸》赤堀郁彦・飯野啓三・鎌田恵
子・木内隆男・近藤育世・佐藤靖房・野田芳正・林 亘 《書》大島崑山・川口流
坡・斉藤丹鶴・竹田悦堂・溪口幽城・西川万象 《写真》鈴木健夫・鈴木登美太郎・
高橋 勤・中島倍三・野沢喜七・平本昌義・吉田健吉郎（五十音順）

発行●神奈川県美術展委員会 編集●神奈川県美術展委員会事務局(神奈川県県民部文化室) 表紙デザイン●桜井敏夫 撮影●熊代志津夫 制作●株式会社ガリバー

MOA美術館

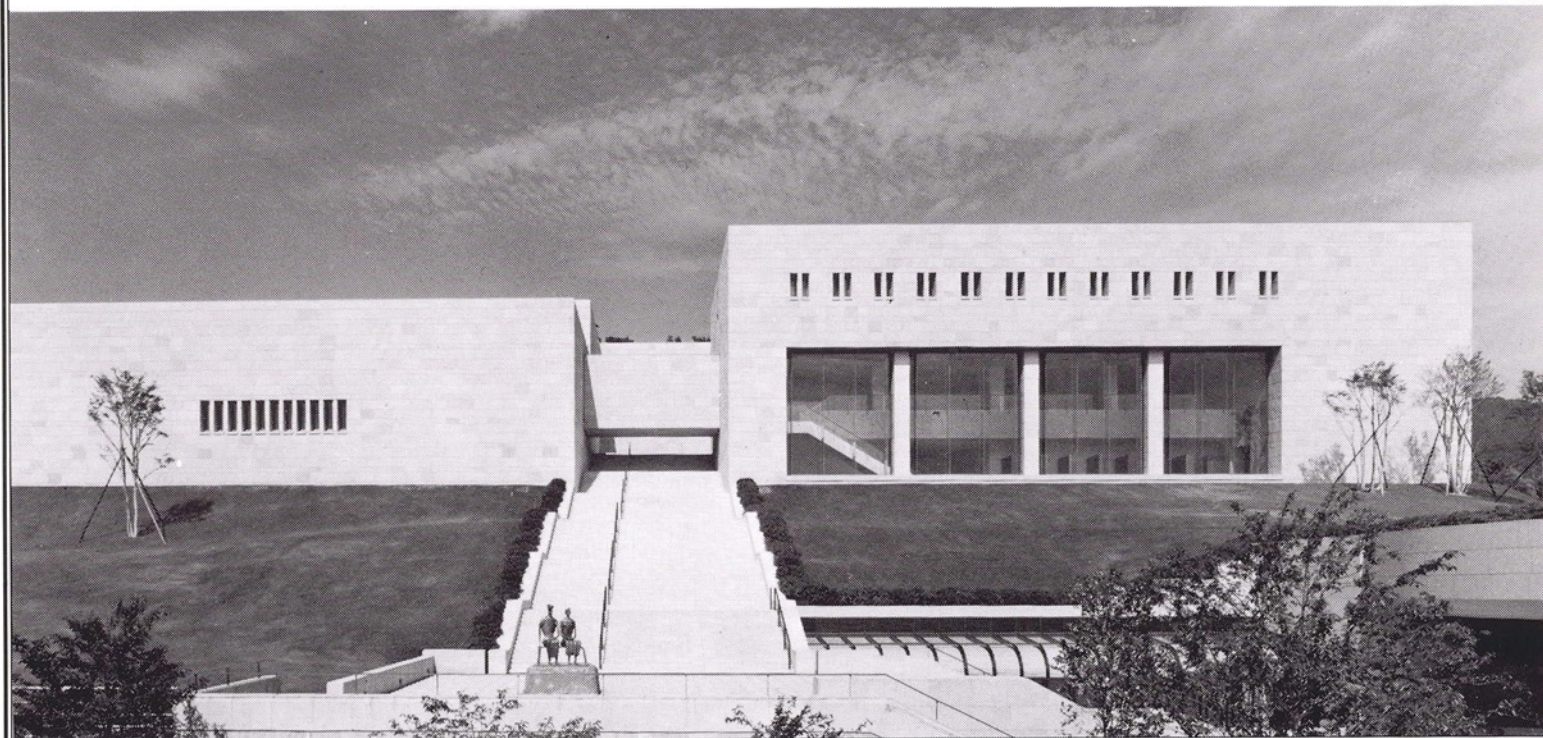
MOA MUSEUM OF ART

熱海駅より路線バスMOA美術館行8分

開館 AM9:30~PM4:00<入館はPM3:30まで>

休館 毎週木曜日 年末年始 TEL(0557)81-5785

観覧料 大人1,000円 高・大学生500円 小・中学生300円 団体20名以上2割引



箱根美術館

HAKONE MUSEUM OF ART

開館 AM9:30~PM4:00<入館はPM3:30まで>

休館 毎週木曜日 年末年始

観覧料 大人500円 高・大学生300円

小・中学生200円 団体20名以上2割引

TEL (0460)2-2623





彫刻の森美術館 (休館日なし)

箱根登山鉄道・彫刻の森駅下車
TEL 0460-2-1161

彫刻の森美術館姉妹館

美ヶ原高原美術館 (4月25日—11月30日開館) 期間中無休

長野県ビーナスライン美ヶ原線終点
TEL 02688-6-2301~2



○ サクラカラープリント



信頼のおける品質を
迅速におとどけする

プロ用カラープリント
アマチュア用カラープリント

株式会社 京浜サクラカラー

横浜市神奈川区新子安1-22-22 ☎045(431)7221

サクラカラーII

そのとき
感じるままに



NINA RICCI

大人の知性を ファッションに表現する
ニナ リッチ……パリの気品とエスプリ
あふれる作品を多彩に発表しています
ニナ リッチで シックな装いを どうぞ



ニナ リッチ ブティック ●本館3階

家族で楽しいショッピング



国鉄・地下鉄関内駅下車
イセザキ町

横浜 **松坂屋**

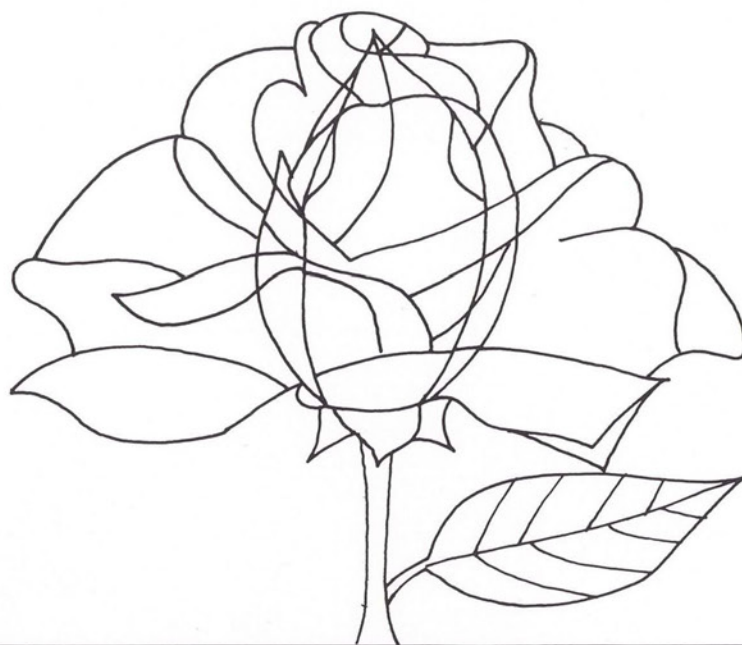
電話261-2121 水曜定休

 お車のお客様はパーキングをご利用ください

おしゃれなレンガの散歩道 **イセザキ・モール** 

財団法人

神奈川県美術奨学会



■美術振興基金募集

当法人は、県内の美術振興と新人作家の発掘・育成を目的として昭和45年に設立、以後毎年「神奈川県美術展(神奈川県・神奈川県美術展委員会主催)」に出品された優秀作家に奨学金(美術奨学会賞)を給付していますが、基金を増額し、更に意義ある奨学金といたしたく篤志家の御寄付をお願いしております。

皆様方の御協力をお願い申し上げます。

なお、寄付金は、基金に繰り入れさせていただき、この基金の運用金(利子)から奨学金として給付されます。

県下随一! 画材・製図・デザイン用品の専門店



 有隣堂

画材・製図デザイン用品コーナー

● ユーリンファボリ 横浜・馬車道
TEL.(045)662-1231
地下鉄関内駅馬車道口下車1分・国鉄関内駅北口下車3分

● 藤沢店 藤沢駅南口名店ビル6階
TEL.(0466)26-1411

● 厚木店 小田急線・本厚木駅前
TEL.(0462)23-4111

洋画材料/デザイン用品/製図用品/日本画材料/各種紙類

グループ展に…個展に…

作品発表の場としてご利用下さい。

ユーリンファボリ・7階ギャラリー

● ギャラリーについてのお申込み・お問合せは
有隣堂営業企画課ギャラリー係へどうぞ。
TEL.(045)261-1231(代表)

一枚の絵が、 心を豊かにしてくれた。

くらしを豊かに——東洋信託銀行の願いです。

東洋信託銀行は、信託業務をはじめとする
幅広い業務を通じて、みなさまのくらしのあらゆる面で
お役に立ちたいと願っております。
あなたのより大きな明日のために、
ぜひ東洋信託銀行をご利用ください。

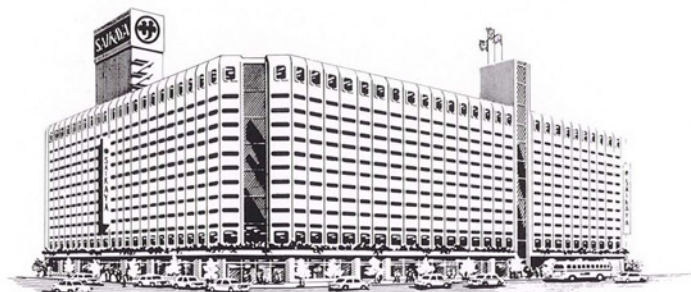
東洋信託銀行

横浜支店

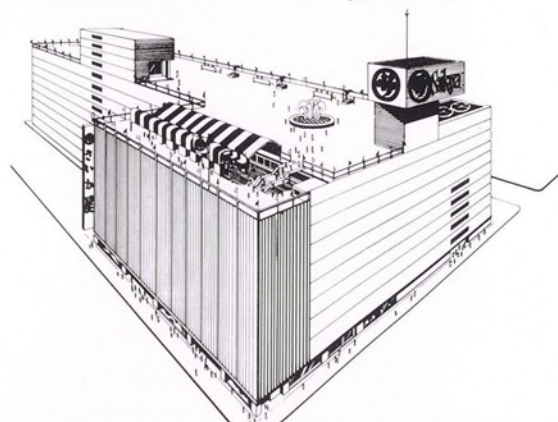
〒220 横浜市西区北幸1-1-8(横浜駅西口前)

☎045(311)2421

よい品にまごころそえて 豊かな暮らしのお手伝い。



●川崎店 ☎044・211・3111 〒210 川崎市川崎区小川町1



●横須賀店 ☎0468・23・1234 〒238 横須賀市大滝町1-10



さいか屋

川崎店・横須賀店

水曜定休

世界のファッションと文化のプラザ



●藤沢さいか屋 ☎0466・27・1111 〒251 藤沢市藤沢555



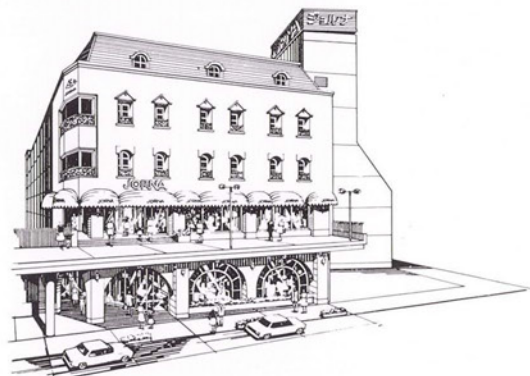
三越グループ

藤 沢

さいか屋

水曜定休

若い仲間のファッションロード
ジヨルナ



●町田ジョルナ ☎0427・23・2531
〒194 町田市原町田6-6-14



MACHIDA

JORNA

第2・3水曜定休



LIVE COLOR

生きている。

みんなの笑い声が聞えるような、木々の緑を伝わる風を感じるような生き生きした色の仕上、フジカラープリントは、すぐれた設備と確かな品質管理から生まれます。

神奈川フジカラー

横浜市旭区川島町2888 ☎045(381)7111(代)

あざやかに旅する気持——ショピニック

私たちのまち
いま、いろいろなバリエーションから
新しい生活の形をイメージした空間
ひとつの提案から……
みずみずしく生まれ変わった四つのステージ
あのフレッシュなリンゴの香り
イセザキ・モール
訪れてみませんか!?



アップルシティーはキャッシュレス!
アップルクレジットカードで
ショピニックをお楽しみください。

YOKOHAMA はずむこころで—ショピニック

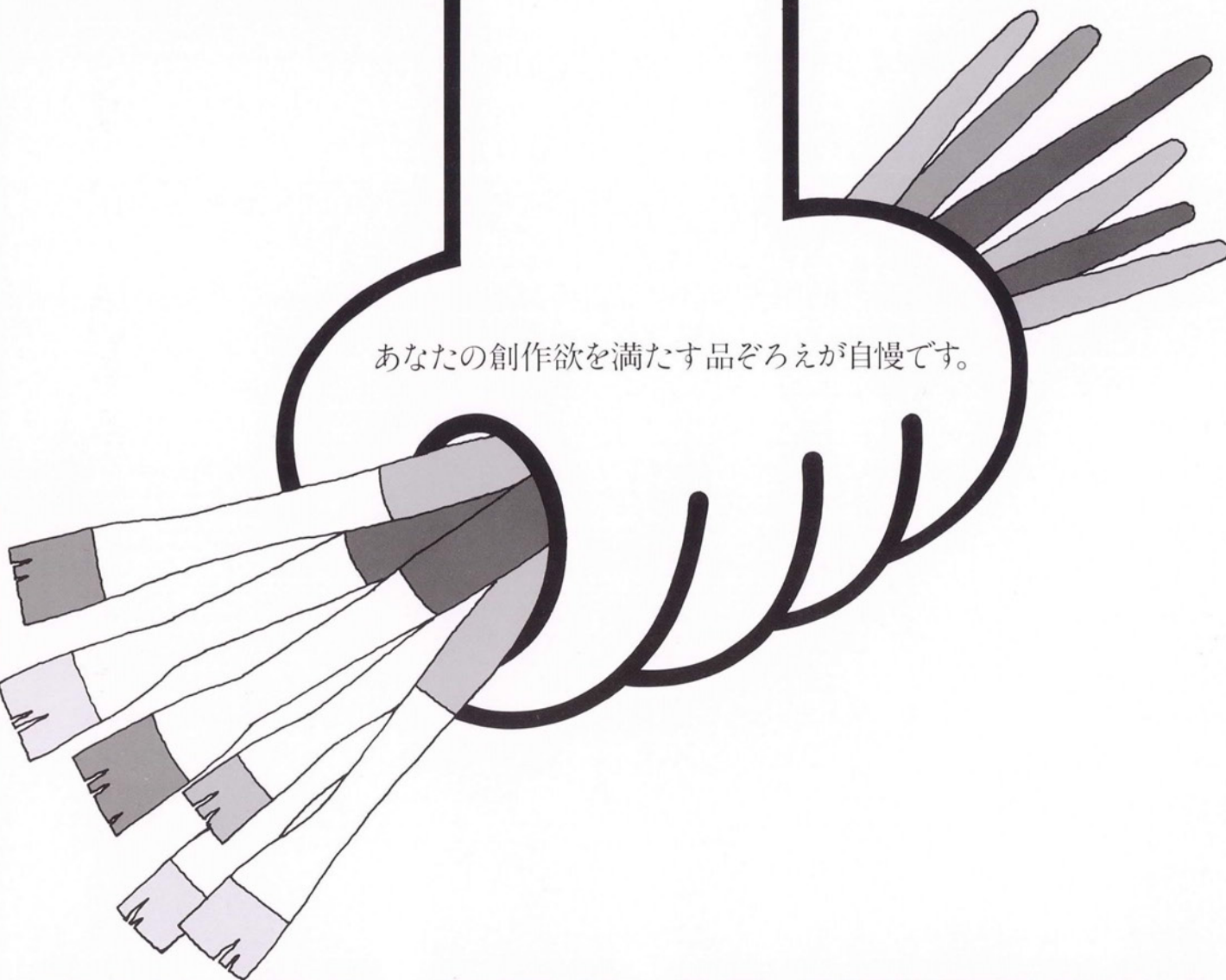
イセザキ町

イセザキ町テレホンガイド (045) 261-1020

UCHUDO

●洋画材料●デザイン用品●額縁

あなたの創作欲を満たす品ぞろえが自慢です。



ALL OF ART MATERIAL

宇宙堂

横浜店 横浜ステーションビル4F・6F TEL.045-311-1281(代) 内線587(4F) 522(6F) 蒲田、仙台、千葉、津田沼、船橋、荻窪、静岡、松戸、他全15店舗
鶴見店 鶴見駅ビル3F・5F TEL.045-521-4520(3F)・045-521-3637(5F)

GEOFFREY BEENE



タカシマヤからおとどけします。
いきいきと道を切り開く女性たちへ心からの声援とG・ビーンの服を。

横浜タカシマヤ●3階
玉川タカシマヤ●2階



横浜高島屋

TEL 045 (311) 1251

